# 年報は新生の里

第 22号 (平成 2 5 年度)

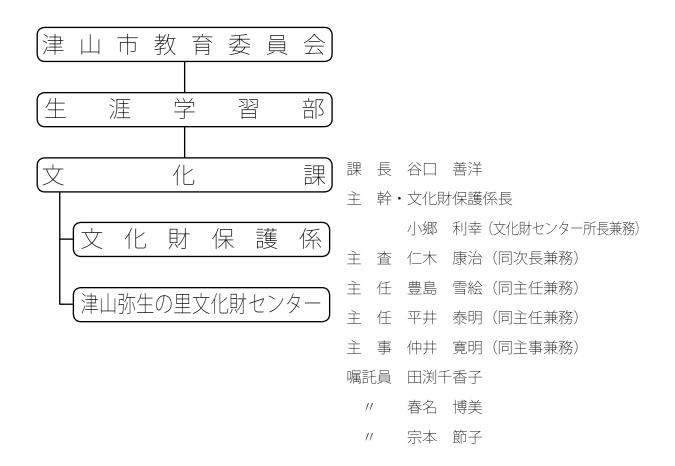
2015 津山弥生の里文化財センター

# 目 次

# 機構図及び職員配置・例言 ii

第一部 津	は山弥生の里文化財センター事業概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
- A   - A - 1   - A - 2   - A - 3   - B   - C   - C - 1   - C - 2	入館者数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 3 6 7 9
第  部 調	<b> </b> 査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	1
- A    - A - 1    - A - 2    - A - 3    - A - 4    - A - 5    - A - 6	旧津山藩別邸庭園(衆楽園)確認調査	3 6 22 25 27
第川部 文	て化財の保護・管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	29
- A	文化財保護委員会 新指定・選定の文化財 文化財防火訓練 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31 31 31 31 32 32 32 32 32 32
第Ⅳ部資	<b>資料紹介・研究ノート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3</b>	33
IV — A IV — B		35 11

# 平成 25 年度機構図及び職員配置



# 例 言

- 1. 本書は、津山市教育委員会生涯学習部文化課(文化財保護係)が平成25年度に実施した事業概要などについてまとめたものである。
- 1. 平成 25 年度の埋蔵文化財発掘調査は、小郷利幸、仁木康治、豊島雪絵、平井泰明、仲井寛明、出土遺物の整理は上記の他、田渕千香子、春名博美、宗本節子が担当した。指定文化財の保存管理事業は仲井寛明が主として担当した。本書の執筆は各担当者が行なった。
- 1. 本書のデータは、PDFフォーマットで保管している。

第 | 部 津山弥生の里文化財センター 事 業 概 要

# A. 展示事業

# 1. 入館者数

平成25年度の入館者数は下表のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大人	74	161	228	63	68	31	149	150	29	37	47	60	1,097
子供	118	179	126	9	21	10	69	191	2	92	136	52	1,005
合計	192	340	354	72	89	41	218	341	31	129	183	112	2,102

表 1 平成 25 年度総利用者数内訳

# 2. 啓発、普及活動

# 【刊行物】

『年報 津山弥生の里 第21号』

『市内遺跡発掘調査報告書』津山市埋蔵文化財発掘調 查報告第83集

# 【講演会など】

「美作国建国 1300 年記念事業」に関連し、各種の 関連事業を実施した。

◇第9回全国国分寺サミット 2013in 美作国分寺

日 時 平成25年10月12日(土)

13:30~16:40(参加者300名)

(13 日:現地見学会、参加者 50 名)

場 所 ベルフォーレ津山

内 容

パネルディスカッション

「文化財を活かしたまちづくり」 参加 10 自治体 講演

「国分寺建立の意義」

奈良文化財研究所名誉研究員 狩野 久さん



第9回全国国分寺サミット 2013in 美作国分寺大会

◇史跡美作国分寺跡平面表示事業

日 時 平成25年10月

場所、史跡美作国分寺跡(現地)

内容

美作国分寺跡の伽藍配置を花の植栽により表示



植栽のようす(中門付近から金堂・講堂方向をみる)



現地見学会(10月13日)

◇シンポジウム「陶棺の謎に迫る」

日 時 平成25年10月27日(日)

13:30~16:40(参加者 200 名)

場 所 勝北文化センター

内容

講演1「美作の陶棺について」

津山弥生の里文化財センター 豊島雪絵さん 講演 2 「近畿地域の陶棺について」

奈良県立橿原考古学研究所 絹畠 歩さん 講演 3 「陶棺の製作背景と地域性」

岡山大学大学院 光本 順さん パネルディスカッション コーディネーター 岡山県教育庁文化財課 尾上元規さん



シンポジウム「陶棺の謎に迫る」

◇陶棺プロジェクト-実大陶棺の復元-

日 時 平成25年6月~10月

場 所 勝北陶芸の里

内容

水原古墳出土陶棺(東京国立博物館蔵)の実大レ プリカを粘土採集から焼成まで実験的に復元、製作



復元陶棺の製作



復元陶棺の除幕式 (勝北文化センター 10月27日)

◇第32回津山市文化財調査報告会

日 時 平成26年3月1日(土)

13:30~16:30 (参加者 100名)

場 所 グリーンヒルズ津山 リージョンセンター 内 容

報告1「美作の幕領に関する資料について」

津山郷土博物館学芸員 東 万里子さん

報告 2 「羽柴秀吉の禁制状と黒田官兵衛の書状」

講演「陶棺を復元して」

勝北陶芸の里工房指導員 花岡 勉さん

津山郷土博物館学芸員 梶村明慶さん



第32回文化財調査報告会

◇新訂増補「美作略史」刊行記念講演会

日 時 平成26年3月9日(日)

13:30~15:30(参加者 60 名)

場 所 津山郷土博物館研修室

内容

講演「美作略史雑談」

元ノートルダム清心女子大学教授 三好基之さん

「美作略史」の執筆に関する話や、研究により明 らかになった古代・中世の美作国について講演



講演会「美作略史雑談」

# 【外部講演】

開催日	演題等	講師	会場と参加者
4/5 (金)	「みまさか」の国ができるまで	仁木康治	津山市立図書館 25名
4/7 (目)	陶棺のはなし	平井泰明	勝北文化センター 100名
4/28 (日)	岩屋城跡の保存について	仁木康治	大井西ふれあい会館 48名
4/28 (目)	歴史探訪ウォーク	小郷利幸	美和山古墳群ほか 59 名
5/15 (水)	美作国建国 1300 年について	仁木康治	近長公会堂 25名
5/23 (木)	美作国建国 1300 年について	小郷利幸	西吉田公会堂 24名
6/2 (目)	中央支部ウォーキング	小郷利幸	総社、美作国府跡ほか 45名
6/15 (土)	美作国の歴史を学ぼう	仁木康治	久米支所 37名
6/21 (金)	黒岩遺跡・城山遺跡 発掘調査報告	平井泰明	久米公民館 74名
8/28 (7k)	都と美作	仁木康治	美作大学 20名
8/31 (土)	美作の陶棺について	豊島雪絵	美作大学 20名
9/7 (土)	黒岩遺跡	平井泰明	岡山県立博物館 100名
9/7 (土)	津山城跡	豊島雪絵	岡山県立博物館 100名
9/20 (金)	みまさかの国ができるまで	仁木康治	あわくら会館 48名
10/1 (火)	清泉地区の文化財	仲井寛明	清泉公民館 30名
10/27 (目)	歴史の中の二宮地域	仁木康治	二宮公民館 60名
11/6 (水)	史跡津山城跡をめぐる	豊島雪絵	津山城跡 13名
11/10 (目)	秋の文化財めぐり	小郷利幸	中山神社・総社ほか 41 名
11/17 (日)	美作の陶棺について	豊島雪絵	津山市総合福祉会館 190名
11/17 (目)	美作の陶棺の謎にせまる	豊島雪絵	アルネ津山 43名
11/30 (目)	山城を地域に活かす	小郷利幸	ペンタホール 200名
2/17 (火)	美作国の歴史について	仁木康治	勝央町公民館 80名
2/18 (火)	岡山市東公民館ウォーキング	仁木康治	久米歴史民俗資料館ほか 28名
2/23 (目)	遺跡から見た津山の歴史	小郷利幸	中央公民館 90名
3/23 (目)	さら山の古墳を訪ねて歩こう	小郷利幸	中宮古墳ほか 70名

# 【研究会】

美作考古学談話会(会員15名)

	日時	演題	講師	参加者
第1回	6/1 (土)	「国分寺」 - 発掘調査からわかること -	平井泰明	8名
第2回	7/6 (土)	実物大の陶棺 復元作業見学会	豊島雪絵	4名
第3回	10/5 (土)	復原陶棺の焼成前見学会	豊島雪絵	9名
第4回	12/7 (土)	「古代の国家事業」	仁木康治	8名
第5回	1/11 (土)	「美作国の建国を考える」	小郷利幸	6名
第6回	3/29 (土)	「旧津山藩別邸庭園(衆楽園) 確認調査について」	仲井寛明	5名

# 【速報展】

発掘調査速報展

『津山の歴史を掘る - 美作国建国 1300 年記念 -』 ◇美作国府跡: 須恵器(杯蓋·身、「苫」印)、土師器 皿、軒丸瓦、円面硯、緑釉陶器

◇美作国分寺跡:軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、塼 ◇中宮1号墳:円筒埴輪、鉄鏃、馬具(轡、鐙、雲珠 鏡板)

◇六ツ塚古墳群:円筒埴輪

# 【収蔵資料の貸し出し】

資料名	相手方	期間	貸出理由
久米廃寺塑像片一 括・美作国府跡 約 即円面限1面・刻 印土器1点・美作国 陶器一括・美作国 分寺跡軒丸・軒平 瓦1組	岡山県立美術館	H25.5.21 ~ H25.7.20	特別展 「美作国建国 1300 年記念協賛展 美 作の美術」
火おこし器 8点	広野小学校	H25.4.26 ~ H 25.5.2	授業
柳谷大刀把鼠兔 與 且 中 在力把照点。 中 原 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明	岡山県立博物館	H25.7.9 ~ H25.9.15	企画展 「美作の名宝」
津山城軒丸瓦2 点・軒平瓦2点・ 黒岩遺跡弥生土器 1点・須恵器1点・ 土師器1点・写真	岡山県立博物館	H25.9.5 ~ H25.10.6	特別陳列 「大地からの便り 2013」
黒曜石(山/奥遺尾 跡1点・野大市田 遺跡5点・大市田 大正開港遺跡1点・ 大正開港遺跡1点・ 荒尾遺跡3点・ 宝事坊恵は 文東地区1点)	岡山理科大学生物 地球学部 白石 純	H25.9.17 ~ H25.10.22	学術研究
糸車1点	個人	H25.11.1 ~ H25.11.5	城東昔まつり

# 【収蔵資料の特別利用】

申請者	資料名	利用内容	出版物等
個人	美作国府跡から出土した昆虫遺体約 10 点	画像掲載	『倉敷市立自然史博物館研究報告第29号』
株式会社 五藤光学研究所	クズレ塚古墳陶棺、寺山古墳陶棺・西吉田北1号墳 鉄鉗・鑿、柳谷古墳出土遺物、美和山1号墳遠景、 橋本塚1号墳航空写真	画像掲載	岡山県生涯学習センタープラネタリウム 映像番組「晴れの国おかやま」(美作・歴 史編)
岡山県教育委員会	美作国府跡 SB101・軒丸瓦・円面硯・「少目」 墨書土器、 美作国分寺跡塔跡航空写真・軒丸・軒平瓦、久米廃 寺軒丸瓦・塑像物・塼仏	画像掲載	『古代美作の文化財をたずねる』
個人	的場2号墳雲珠・杏葉・辻金具・革金具・鉸具、万 燈山古墳雲珠・辻金具・轡	熟覧、写真撮影	修士論文
株式会社テレビ津山	DVD「よみがえる津山城」・「津山城再現 CG」	テレビ映像	番組『津山城天守復元みんなで模擬天守 を作ろう』
NHK 津山報道室	DVD「よみがえる津山城」	テレビ映像	NHK 岡山ニュース番組
たつの市教育委員会	陶棺(クズレ塚古墳)	画像掲載	たつの市埋蔵文化財センター企画展『因 幡街道』図録等
株式会社 ジャパン通信センター	城山遺跡	画像等掲載	『文化財発掘出土情報』2013年11月号
有限会社樹林舎	写真資料	画像掲載	『津山・美作今昔写真集』
テレビ朝日映像株式会社	DVD「横野和紙製作技術」、森忠政公坐像(本源寺蔵)、 DVD「津山城再現 CG」	テレビ映像	BS 朝日「歴史発見 城下町へ行こう」
個人	トラフダケ画像	画像掲載	ブログ掲載
個人	堀坂地内遺跡縄文土器 68 点、堀坂地区試掘調査縄文土器 61 点	熟覧、写真撮影	論文作成
個人	万燈山古墳陶棺・空玉	写真撮影	『年報津山弥生の里第 21 号』
個人	田熊の算額	写真	調査研究
津山商工会議所	津山城 CG を航空写真に合成した写真	画像掲載	津山朝日新聞掲載(平成26年3月11日)
(公財)岡山県郷土文化財団	「少目」墨書土器、美作国分寺塔基壇、美作国府推定範囲図、美作国分寺跡伽藍配置図	画像掲載	佐藤信『「美作国建国と律令国家」『岡山 の自然と文化 33 号』
株式会社読売旅行出版社	津山城(備中櫓)写真	画像掲載	月刊「読売旅行」4月号
岡山県知事	津山城 鶴山公園写真	画像掲載	地方自治法施行 60 周年記念貨幣セット

# 3. 寄贈資料

下記資料の寄贈がありました。寄贈いただいた資料は文化財センター資料として保存活用させていただきます。

	寄贈者	寄贈資料
	個人	鶴山焼1点、鉄兜1点、釘隠1点、焼印1点
	個人	土器片 2 点、襖 1 点、屛風 7 点
個人		桶1点

- B. 文化財センター日誌抄(平成 25 年度)
- 4月5日 市立図書館で、「「みまさか」の国ができ るまで」を講演(仁木)
- 4月7日 勝北文化協会春の文化祭で「陶棺のはなし を講演(平井)
- 4月8日 障害者に史跡津山城跡を開放するための道 7月11日 陶棺復元作業見学会(新野・勝加茂・広 路警備
- 4月17日 第1回陶棺復元プロジェクト会議を勝北 7月12日 全国史跡整備市町村協議会中国地区協議 公民館で開催(谷口・小郷・豊島・平井)
- 4月28日 岩屋城を守る会総会で、「岩屋城の保存 について | を講演(谷口・仁木) 二宮連合町内会歴史探訪ウォークで美和山 古墳群ほかを案内(小郷)
- 5月15日 近長公会堂で、「美作建国1300年につい て」を講演(仁木)
- 5月23日 西吉田公会堂で、「美作建国1300年につ いて」を講演(小郷)
- 6月1日 愛山東照宮祭典、愛山東照宮奉賛会総会に 出席(小郷)

第1回美作考古学談話会の開催(平井)

- 6月2日 中央支部連合町内会ウォーキングで美作国 府跡ほかを案内(小郷)
- 6月5日 中道中学校チャレンジワーク(~7日)



中道中チャレンジワーク

- 6月15日 久米支所で、「美作国の歴史を学ぼう」 を講演(仁木)
- 6月21日 久米公民館で、「黒岩遺跡・城山遺跡発 掘調査報告」を講演(平井)
- 6月28日 美作国分寺跡の遺構平面表示のため、河 辺幼稚園・国分寺保育園児が花を植栽
- 7月2日 第2回陶棺復元プロジェクト会議を勝北陶 芸の里で開催(谷口・豊島・平井)
- (谷口・豊島・平井)

- 第2回美作考古学談話会(豊島)
- 7月8日 第9回全国国分寺サミット第1回実行委員 会を河辺公民館で開催(谷口・小郷・仁 木・仲井)
- 戸小学校)を勝北陶芸の里で開催
- 会大会のため鳥取市に出張(~13日、豊 鳥)
- 8月7日 津山ライオンズクラブによる沼弥生住居址 群草刈、本源寺が国指定重要文化財に指 定、津山市城東伝統的記念物群が重要伝統 的建造物群保存地区に選定される
- 8月9日 岡山県史跡整備市町村協議会総会出席のた め岡山市に出張(仲井)
- 8月28日 美作大学で「都と美作」を講演(仁木)
- 8月31日 美作大学で「美作の陶棺について」を講 演(豊島)
- 9月7日 岡山県立博物館で「黒岩遺跡」「津山城 跡」について解説(平井・豊島)
- 9月20日 あわくら会館で「みまさかの国ができる まで」を講演(仁木)
- 10月1日 清泉公民館で「清泉地区の文化財」を講 演(仲井)
- 10月5日 第3回美作考古学談話会を開催(豊島)
- 10月8日 第9回全国国分寺サミット第2回実行委 員会を河辺公民館で開催(谷口・仁木・仲 井)
- 10月12日 第9回全国国分寺サミット2013in美作国 分寺開催(~13日)



展示された美作国分寺の伽藍模型(国分寺サミット)

7月6日 陶棺復元作業見学会を勝北陶芸の里で開催 10月23日 文化庁西岡 聡技官(建造物担当) 苅田家 住宅を調査(~24日)

ンポジウムを勝北文化センターで開催



陶棺の運搬作業 (勝北文化センター)

二宮公民館で「歴史の中の二宮地域」を講 演(仁木)

10月29日(公財)岡山県郷土文化財団主催の現地研 修会で美作国分寺跡ほかを案内(小郷)

10月31日 第34回史跡津山城跡整備委員会開催

11月1日 第1回津山市文化財保護委員会開催

11月6日 岡山県高等学校教育研究会地理歴史・公 民部会「史跡津山城跡をめぐる」で案内 (農島)

11月10日 倉吉文化財協会「秋の文化財をめぐる」 で中山神社ほかを案内(小郷)

11月12日 香川県埋蔵文化財センターボランティア 研修で美作国府跡ほかを案内(仁木)

11月17日 岡山県川柳協会主催川柳大会で「美作の 陶棺について」を津山市福祉会館で講演 (豊島)

> 山陽新聞社歴史講座「美作の陶棺の謎に迫 る」をアルネ津山で講演(豊島)

11月24日 岡山県民俗芸能大会を津山文化センター で開催

11月27日 津山市史自然風土・考古部会を開催

11月30日 津山市・美作の中世山城連絡協議会共催 のシンポジウム「山城を地域に活かす」で パネラー (小郷)

12月7日 第4回美作考古学談話会の開催(仁木)

1月11日 第5回美作考古学談話会の開催(小郷)

1月15日 市議会観光振興議員連盟が苅田家住宅及 び酒造場を視察

1月18日 文化庁記念物課 近江俊秀文化財調査官岩 屋城跡現地指導

10月27日 陶棺復元プロジェクトと美作の陶棺展シ 1月20日 岡山県史跡整備市町村協議会研修会を津 山市で開催(谷口・小郷・豊島・仲井) 総社宮・鶴山八幡宮・箕作阮甫住宅で文化 財防火查察(小郷・仲井)

> 1月21日 愛染寺・白加美神社・高野神社で文化財 防火查察(小郷・仲井)

> 1月26日 千磐神社で文化財防火訓練(谷口・小 郷・仲井)

> 1月30日 第9回全国国分寺サミット第3回実行委 員会を河辺公民館で開催(谷口・小郷・仁 木・仲井)

> 2月12日 第3回陶棺復元プロジェクト会議を勝北 支所で開催(谷口・小郷・豊島・平井)

> 2月17日 勝央町公民館で「美作国の歴史につい て」を講演(仁木)

> 2月18日 岡山市東公民館ウォーキングクラブ視察 で久米廃寺ほかを案内(仁木)

> 2月22日 史跡津山城跡冠木門発掘調査現地説明会 開催(50名)

> 2月23日 中央公民館文化祭で「遺跡から見た津山 の歴史」を講演(小郷)

2月24日 津山市史自然風土・考古部会を開催

3月1日 第32回津山市文化財調査報告会をリージ ョンセンター・ペンタホールで開催 (100名)

3月4日 津山やよいライオンズクラブ45周年記念 植樹を沼弥生住居址群で実施

3月9日 三好基之先生による記念講演会「美作略史 雑談 | を郷土博物館で開催(60名)

3月19日 第35回史跡津山城整備委員会開催

3月20日 第2回津山市文化財保護委員会開催

3月23日 佐良山未来ビジョン研究会主催「さら山 の古墳を訪ねて歩こう」で、中宮古墳ほか を案内(小郷)

3月29日 第6回美作考古学談話会の開催(仲井)

3月30日 史跡美作国分寺跡公有化事業地元説明会

# C. 埋蔵文化財発掘調査

# 1. 平成 25 年度届出関係一覧 埋蔵文化財発掘の届出(法第93条)

	所在地	工事種別	期間	面積 (㎡)	津山市発番津教委文	発信日	指示事 項	実施日	備考
山形古観音寺遺跡	山方 206-5	個人住宅	6.21 ~ 8.21	297.52	第 113 号	4.3	立会	5.30	遺構・遺物無し
二宮風呂屋峪遺跡	二宮 1177-1	その他開発	$6.10 \sim 7.30$	1059	第 232 号	4.9	慎重	-	
美作国府跡	総社 77-1	店舗	$6.1 \sim 7.20$	3,758.38	第 292 号	4.12	立会	7.1	遺構・遺物無し
高野本郷西宮下遺跡	高野山西 51-2	個人住宅	6.10 ~ 1.15	386	第 386 号	4.16	立会	11.8	遺構・遺物無し
美作国府跡	総社 499-1 外	個人住宅	5.30 ~ 11.30	883.08	第 528 号	4.26	立会	6.17	遺構・遺物無し
瓜生原小原 B 遺跡	瓜生原 854-1 外	個人住宅	5.10 ~ 8.10	337.08	第 546 号	4.30	立会	5.8	遺構・遺物無し
美作国分尼寺跡	日上 115	個人住宅	$6.10 \sim 10.31$	437	第 708 号	5.15	立会	6.21	遺構・遺物無し
小原高下遺跡	小原 128	個人住宅	$7.20 \sim 11.20$	304.9	第 772 号	5.20	立会	7.24	
美作国分寺跡	国分寺 287-1	個人住宅	6.3 ∼	138	第 850 号	5.24	立会	6.7	遺構・遺物無し
二宮円通寺北遺跡	二宮 311-1 外	その他開発		25,371	第 1242 号	6.19	立会	7.18	消滅
可辺飯塚遺跡	河辺 2175-14	個人住宅	8.25 ~ 10.25	136.73	第 1305 号	6.27	立会	7.9	遺構・遺物無し
<b>美作国府跡</b>	総社 87-2	個人住宅	未定	229	第 1320 号	6.27	立会	10.4	遺構・遺物無し
美作国府跡	山北 26-4 外	店舗建設	$8.17 \sim 10.30$	4,330.47	第 1660 号	7.17	立会	6.27	遺構・遺物あり
<b>車山城跡</b>	山下 69-37	個人住宅	8.5 ~ 11.22	212.65	第 1763 号	7.25	立会	8.16	遺構・遺物無し
<b>a</b> 井寺畑遺跡	福井 1262-8	個人住宅	$9.25 \sim 11.25$	306.88	第 1764 号	7.31	立会	11.14	遺構・遺物無し
E善庵遺跡	東一宮 61-10	その他開発	10.1 ~ 11.20	753.33	第 1868 号	8.5	立会		
<b>国本遺跡</b>	坪井上 327	その他開発	2~	3,649	第 1966 号	8.9	慎重	-	
<b>友半廃寺跡</b>	高野本郷 928-6	個人住宅	8~	328.7	第 2079 号	8.19	立会	9.26	遺構・遺物無し
美作国府跡	山北 377-5	個人住宅	9.10 ~ 12.21	193.91	第 2174 号	8.30	立会	9.3	遺構・遺物無し
美作国分寺跡	国分寺 287	個人住宅	9~11.30	43.67	第 2482 号	9.18	立会	9.27	遺構・遺物無し
可辺上原遺跡	河辺 1907-2	個人住宅	10.25 ~ 11.20	50	第 2485 号	9.19	立会	11.12	遺構・遺物無し
召野田遺跡	沼 807-2	その他開発	11.25 ~ 12.28	250.78	第 2594 号	9.30	立会	1.7	遺構・遺物無し
野介代燒場平遺跡	野介代 1518-1	個人住宅	11.20 ~ 3.20	372	第 2579 号	9.25	立会	-	
中原遺跡	金井 7-1	工場建設	12~	4.714.27	第 2851 号	10.16	立会		開発取り下げ
美作国府跡	山北 34-2	駐車場	1.10 ~ 2.20	893.48	第 3371 号	11.25	慎重		
日津山藩別邸庭園	山北 541-7 外	宅地造成	許可日~ 11.20	2.887.64	第 3064 号	10.16	立会	11.14	遺構・遺物無し
5野山西内小山遺跡	高野山西 1387	個人住宅	1.15 ~ 1.25	423.31	第 3452 号	11.28	立会	1.29	遺構・遺物無し
勝部国司尾遺跡	勝部 569-1 外	倉庫建築	$1.31 \sim 3.30$	1.882.74	第 3457 号	12.5	立会	1.7	遺構・遺物無し
十六夜山遺跡	椿高下 102-3	個人住宅	12.16 ~ 3.31	835	第 3571 号	12.6	立会		213 213,113
美作国府跡	総社 3-4	個人住宅	12.25 ~ 3.31	468	第 3659 号	12.19	立会	12.27	遺構・遺物無し
美作国府跡	山北 27-1	看板設置	~ 1.31	8.96	第 3694 号	12.20	立会	1.16	遺構・遺物無し
美作国府跡	総社 17	駐車場	1.20 ~ 1.25	285	第 3822 号	1.9	慎重	-	
八米廃寺跡	宮尾 516-3 外	その他開発	8.1 ~ 2.28	15,600	第 3956 号	1.17	. ,		顛末書
卜原平松遺跡	小原 446-11	倉庫建築	4.20 ~ 6.20	323	第 4280 号	2.14	立会		
中原三ツ木遺跡	池ヶ原 63-2	その他開発	4.10 ~ 4.20	630	第 4287 号	2.14	立会	12.16	遺構・遺物無し
可辺上原遺跡	河辺 1896-10	個人住宅	4.15 ~ 8.1	234	第 4363 号	2.21	立会	7.30	遺構・遺物無し
<b>美作国府跡</b>	山北 38-3	個人住宅	4.1 ~ 9.15	73.9	第 4393 号	2.21	立会	3.19	遺構・遺物無し
日上畝山古墳群	日上 862	宅地造成	5.15 ~ 6.30	644	第 4868 号	3.31	慎重	-	

# 埋蔵文化財発掘の通知(法第94条)

遺跡名	所在地 工事種別 期間		届出者	津山市発番	発信日	指示事項	実施日	備考	
津山城跡	山下 59 番地外	その他開発	829 ~ 331	津山市山北 520 津山市長宮地昭範	第 1296 号	6.24	立会	12.17	遺構・遺物なし

# 埋蔵文化財発掘調査の報告(法第99条)

遺跡		所在地	遺跡種別	調査期間	面積 (㎡ ) • 原因	津山市発盤	発信日	調査担当	備考
旧津山藩別	邸庭園	山北 546-9	庭園	2.24 ~ 3.20	20・遺跡整備	第 4451 号	2.24	仁木・仲井	本書参照

# 埋蔵文化財試掘・確認調査の報告(法第99条)

T/90 (10/0) F 0/4									
	遺跡名	周知・未周知	所在地	調査期間	面積(㎡)・原因・包蔵地の有無	津山市発番	発信日	調査担当	備考
	美作国府跡	周知	総社 77-1	$3.21 \sim 3.30$	15・店舗・無	第74号	4.3	平井・仲井	
	美作国府跡	周知	山北 27-1 外	$6.17 \sim 6.27$	68・店舗・有	第 1526 号	7.8	平井	
	中原遺跡	周知	金井4外	$9.11 \sim 9.13$	117.2・その他建物・有	第 2492 号	9.20	平井	
	美作国府跡	周知	山北 34-2 外	11.20 ~ 11.21	5.5・その他開発・無	第 3348 号	11.22	平井	

# 遺跡発見の届出(法第96条)

遺跡名	所在地	遺跡種別	発見年月日	発見の原因	出土品	備考
中山横穴墓	久米川南 3155	横穴墓	H26.2.24	土木工事中	土師器・須恵器 1 箱	現状で保存

# 2. 現地説明会

史跡津山城跡冠木門発掘調査

平成 26 年 2 月 22 日 (土) (50 名)





史跡津山城跡発掘調査現地説明会

# A. 市内遺跡試掘・確認調査報告(平成25年度)

津山市が平成25年度に国庫補助事業(市内遺跡発掘調査等)でおこなった事業についての概要報告である。 調査は、開発に伴う確認調査(美作国府跡、中原遺跡)、保存に伴う確認調査(衆楽園)、及び測量調査(鋳場 古墳、祇園千人塚古墳、城垳上1号墳)の6件である。

# 1. 旧津山藩別邸庭園(衆楽園)確認調査

- a調査地 津山市山北 546-9 番地
- b調査期間 平成26年2月24日

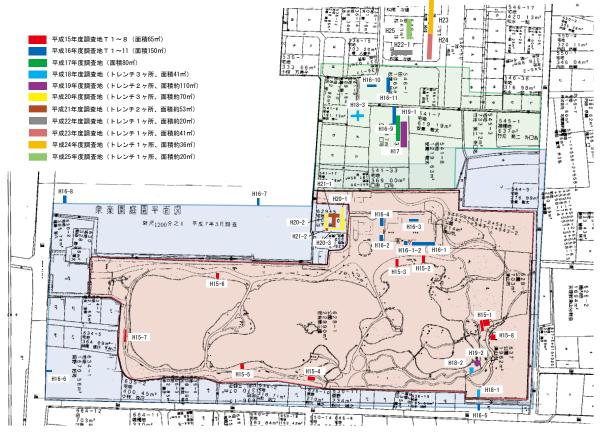
~平成 26 年 3 月 7 日

- c調査面積 約20㎡
- d調査の概要

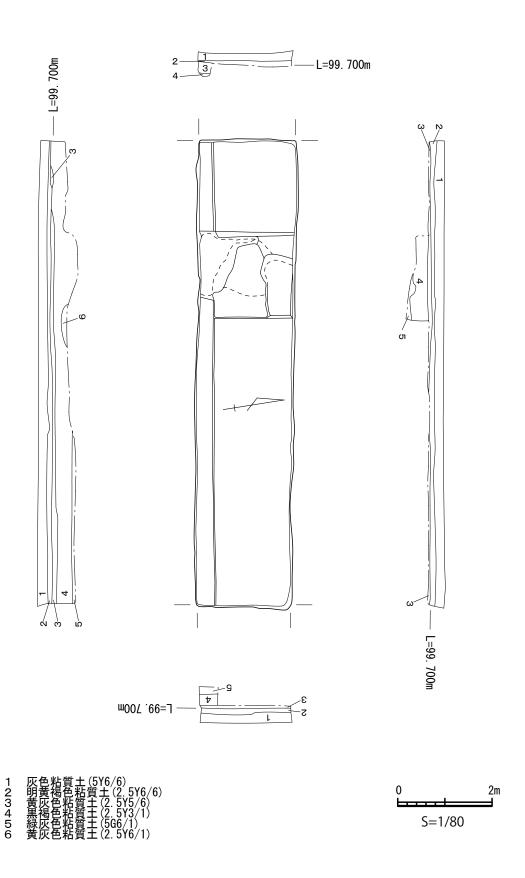
旧津山藩別邸庭園(衆楽園)は平成14年に国の名 勝に指定され、平成15年から継続的に確認調査を実 施している。平成25年度の調査は、昨年に引き続き 遺跡の範囲のうちで西御殿絵図 (天保4年) 以西の関 連遺構の所在確認を目的として実施をした。調査場所 は、昨年度実施した調査場所の南側にあたる部分にト レンチを1本設定した。



第1図 調査位置図



第2図 調査トレンチ位置図 (S=1/2,500)



第3図 トレンチ平面図・断面図 (S=1/80)

#### トレンチ

東西方向に長さ 10 m×幅 2 mのトレンチを設定し る状況が確認できた。

既調査の結果から、多くの小礫を含む黒褐色粘質土 層より下には遺構面は無いと判断したが確認のためト レンチ南端部分をさらに掘り下げて層序の確認を行っ に関連する遺構及び遺物は確認されなかった。 た。その際、トレンチ南西側の一部に黒褐色粘質土の 落ち込みが見られたため、その範囲(約2m)を拡張 して掘り下げたが落ち込みの形状が不定形で、遺物を 伴わないため遺構ではないと判断した。

今回のトレンチでは、遺構の確認はできなかったが、 耕作土から須恵器片などが少量出土している。

# 出土遺物

今回の調査では遺構に伴う遺物は検出されておらず、 た。調査の結果、上層から灰色粘質土、明黄褐色粘土、耕作土から須恵器等が出土しているが、極小片のため、 黄灰色粘土、多くの小礫を含む黒褐色粘質土が堆積す 時代等の情報を得ることができず、またそのため図化 もできなかった。

#### eまとめ

今回の調査範囲では、旧津山藩別邸庭園(衆楽園)

(平井泰明)



調査前(北東から)



トレンチ (東から)



落ち込み (東から)



作業状況

#### 2. 美作国府跡確認調查

a 調査地 津山市山北 27-1 ほか b 調査期間 平成 25 年 6 月 17 日~

平成 25 年 6 月 27 日

#### c 調査面積 326㎡

# d調査の概要

美作国府跡は、津山市街地を流れる宮川右岸の 段丘上にあり、昭和61年から平成4年にかけて の確認調査で、溝と塀に囲まれた中に主要な建物 が存すること等が知られている。この周知の遺跡 「美作国府跡」の範囲内の津山市山北27-1ほかで、 店舗建設が計画されたため、店舗の基礎工事で掘 削を行う範囲の確認調査を実施した。

調査地は、美作国府の政庁跡と考えられている場所の南方向約 250 mの場所に位置し、最近まで、住宅地や畑として利用されていた場所である。このため、特に調査地東側と北側(畑になるまでは、アパートが数棟建っていたとの情報を得た)ではそれらの基礎と思われるコンクリート片などが散乱しており、今回の工事によって影響を受けると

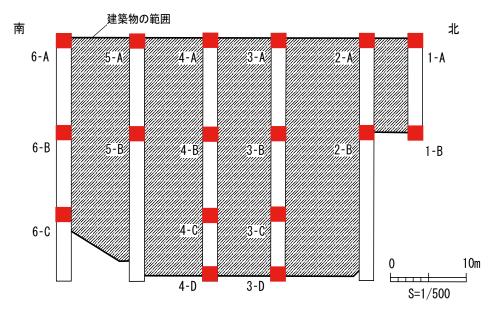
考えられるレベルでの旧地表面はすでに失われている 場所があることが予想された。

調査はまず、基礎を設置する 17 か所の部分を含む場所を東西方向のトレンチとして 6 本を設定して重機、人力にて遺構の有無の確認を行い、さらにこの工事で

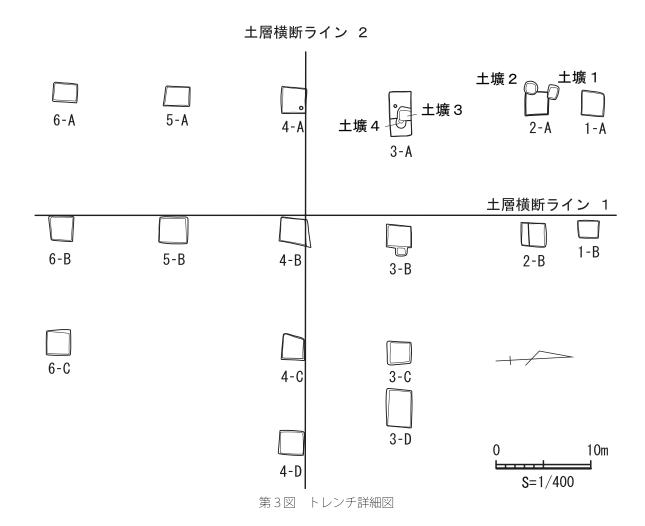


「美作国府跡 小田中遺跡 山北遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』228 岡山県教育委員会 2011 掲載図に加筆 第1図 調査位置図

遺構面が影響を受ける建物の基礎部分の周辺(約2m×2mの範囲)の17ヵ所を掘り下げて、遺構の有無の確認を行い、写真撮影、図面等を作成した。その後検出した遺構について開発業者と調整を行ったうえで発掘調査を行った。実作業日数は8日である。



第2図 トレンチ配置模式図



# 層位

耕土直下に、黄褐色粘質土の層が現れた。建物の基 礎部分にあたる 17 ヵ所をさらに掘り進めるも同じ層 が続いたためこの層を基盤層と判断した。したがって、 本調査区内の基本的な層位は、上から耕土、基盤層と なる。また、この状況から包含層や基盤層も相当程度 削平を受けていると考えられる。

# 検出遺構

# 土壙1

検出面において、長辺 123cm、短辺 92cm、深さは 93cmの長方形を呈する。土層観察からは、柱抜取痕 などは確認されず、遺物も出土していないため、用途 については判然としない。

# 土壙2

検出面において 115cm四方の円形に近い方形を呈す るが床面では 75cm四方の方形を呈している。この遺 ずれも遺構検出時に出土したもので、遺構に関連して 構からは、床面中央付近から柱根が検出され、それを出土したものはない。また、図示したもの以外にも、

囲むように 30cm四方の粘土層が見られた。また、柱 を囲むように石の配置が見られ、柱を固定するために 使用されたものと考えられる。なお、遺物は、極小破 片の土器のみで年代等を知る手掛かりとなる遺物の出 土はなかった。

# 土壙3

一辺 115cmで深さは検出面より 50cmの不整形な方 形を呈する。検出の状況から柱穴の可能性が考えられ る。この遺構に伴う遺物は検出されなかった。

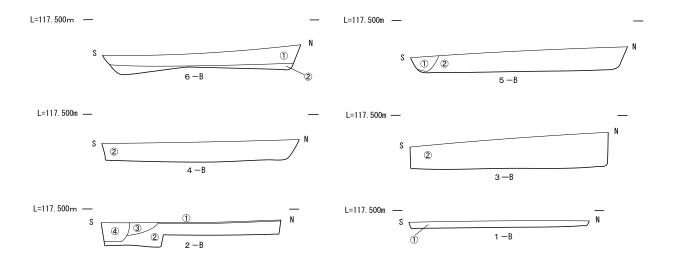
#### 土壙4

径 85cmのやや不整形な円形を呈する。深さは検出 面から 35cmである。この遺構に伴う遺物の出土はな く、遺構の性格については判然としない。

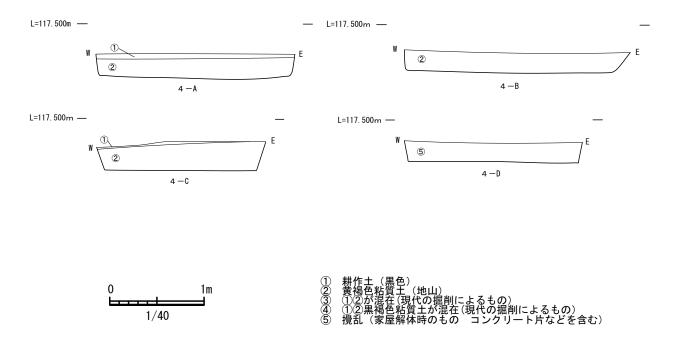
# 出土遺物

遺物は土壙2から出土した極小片の土器以外は、い

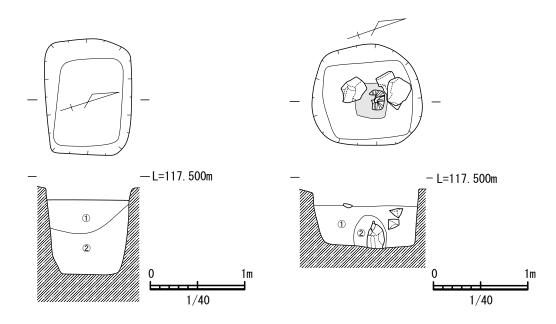
# 土層横断ライン 1



# 土層横断ライン 2



第4図 トレンチ断面図

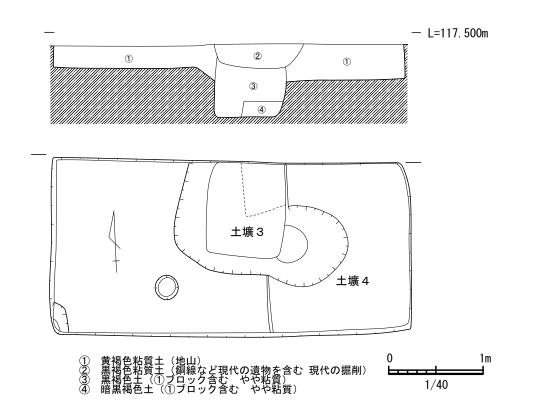


黒褐色粘質土(少量の地山ブロック含む) 暗黒褐色粘質土・明黄褐色粘質土 (地山)のそれぞれのブロックを含む

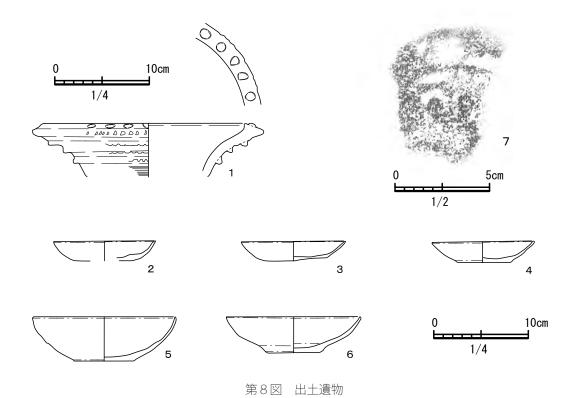
黒褐色粘質土(少量の黄褐色の地山ブロック含む) 明灰色粘土

第5図 土壙1平面図・断面図

第6図 土壙2平面図·断面図



第7図 3-Aトレンチ平面図・断面図



勝間田焼片等の遺物が出土しているがいずれも極小片であるため、図示できていない。

1は弥生土器で、頸部から口縁部に向かって肥厚し 平坦面を形成する。そこに円形浮文を施す。外面は3 条の張付突帯が用いられ、口縁部とともに刻目が施さ れる。弥生時代中期中葉ころのものであろう。2~4 は土師器の小皿でいずれも糸きりにより切り離されて いる。5・6は土師器碗である。5の底部はほとんど 高台状を呈していない。6は底部が平高台状を呈する。 いずれも糸きりにより切り離されている。これらの土 師器は、おおむね12世紀中頃から13世紀前半にか けてのものであろう。7は軒丸瓦で、かなり磨滅して おり判別しにくいが、複弁蓮華文であると思われる。 eまとめ

調査の結果、柱穴と考えられる土壙2基と用途は判然としない土壙が2基、それと、小ピット数基が検出された。これらの遺構は、調査区西端の2-A、3-A及び4-Aから検出されまた遺構に伴わない遺物(弥生土器、須恵器、土師器、勝間田焼、瓦)も多くは3-A付近から出土している。遺構が西側に集中することについては、本調査地東側では、最近まで住宅地として利用されていたこともあり、今回の工事によって影響を受けるレベルでの旧地表面はすでに失われていたこ

とが、3-D・4-Dトレンチの観察により分かっている。 このため、この部分の遺構が消滅している可能性が高いことが要因の一つであろうが、本調査区より西側に 遺構が密に存在していることも想定される。

今回は、開発工事に伴って、影響を受ける範囲のみを対象として確認調査及び発掘調査を行ったため、現段階では、遺構間の関係等を明らかにすることはできなかったが、調査結果から、今回の調査範囲を含む場所に1ないし2棟の建物跡が存在することが想定される。 (平井泰明)

# 参考・引用文献

「美作国府跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告』第 50集 津山市教育委員会 1994

「美作国府跡 小田中遺跡 山北遺跡」『岡山県埋蔵文 化財発掘調査報告』228 岡山県教育委員会 2011 平岡正宏 「美作の古代末から中世の土器」『中近世土 器の基礎研究IV』日本中世土器研究会 1993



トレンチ掘削状況



3-Aトレンチ検出状況(南から)



2-Aトレンチ検出状況(東から)



3-Aトレンチ完掘状況(南から)



2-Aトレンチ土壙1



弥生土器



瓦



2-Aトレンチ土壙2



土師器碗・小皿

出土遺物

#### 3. 中原遺跡確認調査

a調査地 津山市金井4番地ほか

b調査期間 平成25年9月11日

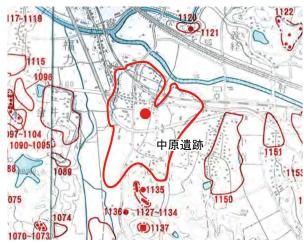
~平成 25 年 9 月 13 日

# c 調査面積 約 117.2㎡

# d調査の概要

中原遺跡は広戸川左岸に広がる台地上にある弥生時代の集落跡である。この周知の遺跡中原遺跡の範囲内の津山市金井4ほかで、事業用倉庫の建設が計画されたため、造成工事で掘削を行う範囲の確認調査を平成25年9月11日から平成25年9月13日にかけて実施した。調査はこの工事で遺構面が影響を受けると考えられる造成時に切土を行う場所にトレンチを3本設定し、遺構の有無の確認を行い、写真撮影、平面・断面図等を作成した。実作業日数は3日である。

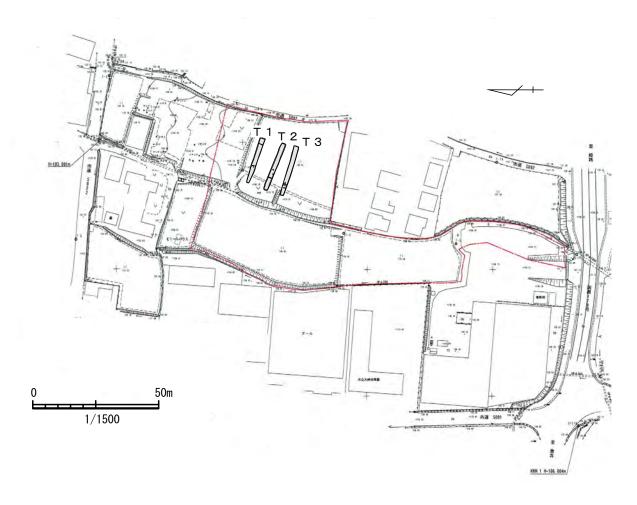
調査地は、丘陵頂部よりやや北側に下った場所に位 認等を行った。 置し、最近まで、田として利用されていた場所であ 3本のトレン



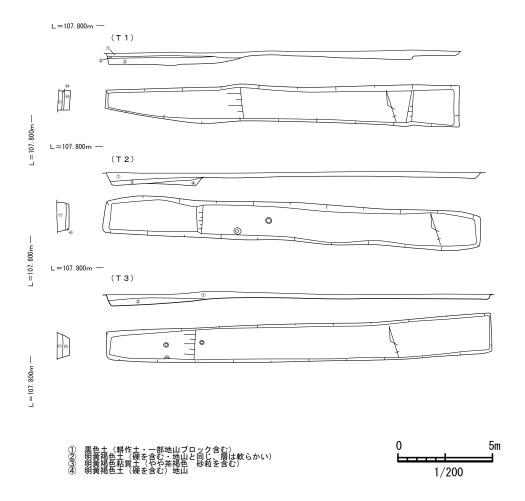
第1図 調査位置図 (S=1/25,000)

る。調査は、まずこの調査地に  $2 m \times 20 m O$ トレンチを 3本設定して、(北から 11、12、13とする。) 重機にて掘削後人力にて掘り下げ、遺構の有無等の確認等を行った。

3本のトレンチはともに、耕作土の直下で地山が現



第2図 トレンチ配置図



第3図 トレンチ平面図・断面図

れ、この状況から、包含層や地山が相当程度削平を受 けていると考えられた。遺構検出作業の結果、T2、 T3で削平を免れたピット数基を確認したが現状で 遺構面は削平を受け残存していないと判断される。 は、これらの遺構もかなり削平を受けており、さらに 遺物の出土もなかったため、遺構の性格や年代等も明 らかにできなかった。また、この状況で遺構の広がり も確認できなかった。

eまとめ

今回の確認調査の結果から、今回の開発対象箇所では、 (平井泰明)



24 年報津山弥生の里 22号

#### 4. 鋳場古墳測量調査

- a. 測 量 地 津山市久米川南 1111-1 番地ほか
- b. 測量期間 平成26年2月27日~

平成 26 年 3 月 20 日

- c. 測量面積 約2,000㎡
- d. 測量の概要

市町村合併に伴い、旧町村の指定文化財については すべてが津山市指定文化財として引き継いだ。新たに 市指定に加わった古墳(群)は19件あるが、このう ちのほとんどに墳丘測量図がないなど、基礎資料が不 足している。

このため、これらの古墳(群)の基礎資料作成の一 環として、墳丘測量図の作成を目的とした測量調査を 平成 22 年度から平成 29 年度までの計画により実施 している。4年次目にあたる平成25年度については、 鋳場古墳ほか2か所の測量調査を実施した。

なお、本市においては、旧町村から引き継いだ指定 文化財のうち、旧町村の指定名称で既に一般に周知さ れているものは旧指定名称をそのまま使用している。 鋳場古墳については、遺跡地図記載の名称すなわち文 量調査を踏まえた所見としては、鋳場古墳は一辺 化財保護法上の公式名称は「金鋳場 1 号墳」であるが、 17m、高さ 1.6m の方墳で、隣接して径 20m 及び径 指定文化財名称は「鋳場古墳」である。

の見解では一辺 16m、高さ 2 m の方墳とされ、隣接 する数基の古墳とともに古墳群を形成している。この ことから、調査にあたっては個別の古墳の規模把握と



第1図 遺跡位置図

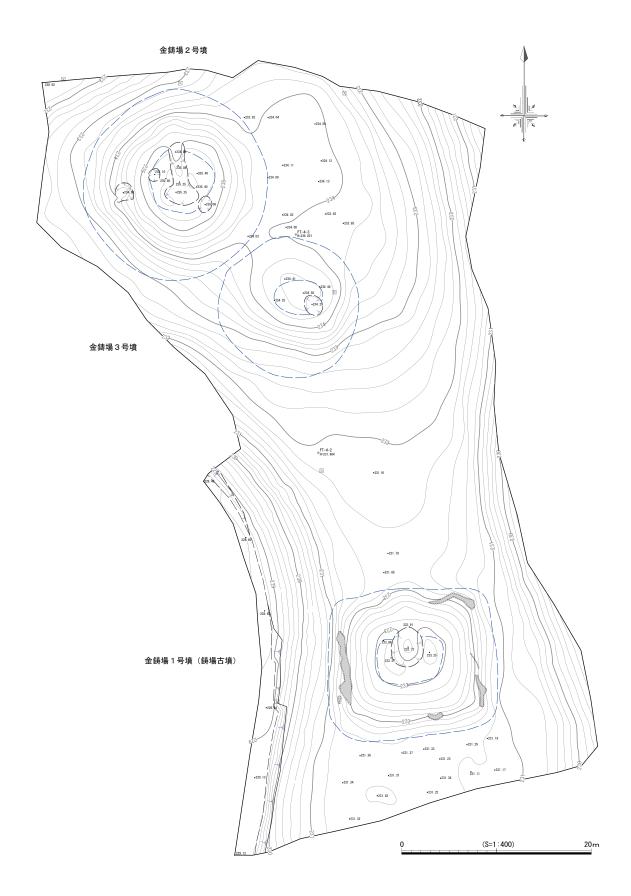
古墳群としての所在状況の把握を併せて行う必要があ ると判断し、古墳群としての測量調査を実施した。

調査は、市有地及び民地が混在するためそれぞれの 許可を得たうえ、平成26年3月に実施した。事前に 作業の障害となる立木の伐採と下刈りを行い、市教育 委員会職員の現地での立会指示のもと測量作業を実施 した。

測量調査の成果については別図のとおりである。測 15mの円墳2基が確認された。今回の調査により古 鋳場古墳は、津山市久米川南地内に所在する。従来 墳(群)に関する基礎資料の把握ができたことが成果 としてあげられる。調査中に遺物は確認されなかった。 (仁木康治)



鋳場古墳全景(南から)



鋳場古墳平面図(S=1/400)

# 5. 祇園千人塚古墳測量調査

- a. 測量 地 津山市南方中 1582-3 番地ほか
- b. 測量期間 平成26年2月7日~

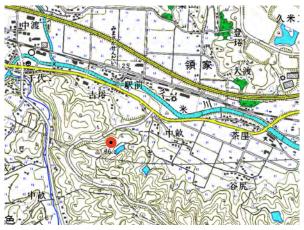
平成26年3月7日

- c. 測量面積 約700㎡
- d. 測量の概要

祇園千人塚は古墳は、津山市久米川南と南方中の大 字界に所在する単独墳である。従来の見解では、一辺 12m の規模の方墳とされていた。調査は、市有地及 び民地が混在するためそれぞれの許可を得たうえ、平 成26年2月に実施した。事前に作業の障害となる立 木の伐採と下刈りを行い、市教育委員会職員の現地で の立会及び指示のもと測量作業を実施した。

測量調査の成果については別図のとおりである。測 量調査を踏まえた所見としては、祇園千人塚古墳は一 辺 18m、高さ4mの方墳で、墳丘の南側は変形が著 しいものの、北半分は良好に遺存していることが判明 した。調査中に遺物は確認されなかった。

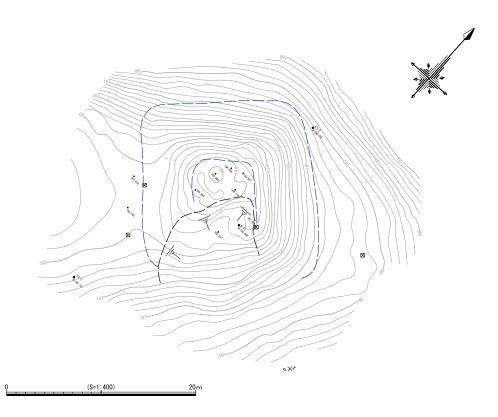
(仁木康治)



第1図 遺跡位置図



祇園千人塚古墳全景(北西から)



祇園千人塚古墳平面図 (S=1/400)

#### 6. 城 公上 1 号 墳 測量調査

- a. 測 量 地 津山市久米川南 1111-1 番地
- b. 測量期間 平成26年1月9日~

平成26年2月3日

- c. 測量面積 約600㎡
- d. 測量の概要

城峪上1号墳は、津山市久米川南地内に所在する単独墳である。従来の見解では、墳丘の過半を滅失しているものの、径15m、高さ1.1mの規模の円墳とされていた。なお、本墳については、遺跡地図記載の名称すなわち文化財保護法上の公式名称は「二反田1号墳」であるが、指定文化財名称は「城塔上1号墳」である。

調査は、市有地であるため管理担当課の許可を得た うえ、平成26年1月に実施した。測量作業上問題と なる立木は管理団体により伐採されていたため、現地 踏査を行って測量範囲の設定を行い、市教育委員会職 員の現地での立会及び指示のもと測量作業を実施した。

測量調査の成果については別図のとおりである。測量調査を踏まえた所見としては、城塔上1号墳の規模は復元径14m、高さ1.2mの円墳とみられる。

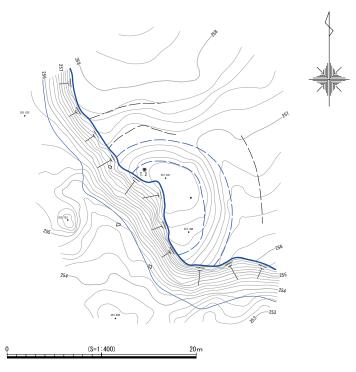
ただし、墳丘の約半分を滅失しているため、墳丘規 模の測量調査での確定は困難である。なお、調査中に 遺物は確認されなかった。 (仁木康治)



第1図 遺跡位置図



城塔上1号墳全景(北から)



城 省上 1 号 墳 平 面 図 (S=1/400)

第Ⅲ部 文化財の保護・管理

# A. 文化財の保護

1. 文化財保護委員会(委員 12名) 第1回:11月1日 第2回:3月20日

2. 新指定・選定の文化財

《国指定文化財》

本源寺本堂・庫裏・霊屋・霊屋表門・中門 附棟札 1枚(8月7日付け)

《市指定文化財》

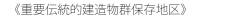
中山神社の太鼓(4月23日付け)



本源寺本堂



中山神社の太鼓



津山市城東伝統的建造物群保存地区(8月7日付け)

- 3. 文化財防火訓練 1月26日 千磐神社
- B. 指定文化財の保存管理
- 1. 国指定文化財 《建造物の修理等》



本源寺霊屋



防火訓練



津山市城東伝統的建造物群保存地区

中山神社・鶴山八幡神社・総社防災設備保守点検 4. その他の文化財 《史跡の公有化、整備》

美作国分寺跡の公有化事業(9年次)

- ・土地4筆の購入、草刈
- ・地元説明会の開催:3月30日

#### 津山城跡の保存整備事業

- ·天守台間詰石補修工事 東側石垣変位計測
- ・「津山城だより No.18」の刊行
- · 発掘調査(冠木門、裏鉄門下雁木)
- ・整備委員会の開催 第34回(10月31日)、第35回(3月19日)
- · 南側法面災害復旧工事

# 《史跡の管理、草刈等》

美和山古墳群の管理、草刈・剪定 三成古墳の草刈、院庄館跡の管理・草刈

#### 《天然記念物の管理》

トラフダケ自生地の管理

《有形民俗文化財の防災点検》 田熊の舞台防災設備保守点検

# 《説明板の設置》

本源寺説明板2基

# 2. 県指定文化財

#### 《史跡の草刈等》

日上天王山古墳・日上畝山古墳群草刈、久米廃寺跡 草刈、矢筈城草刈、岩屋城草刈

# 《天然記念物の管理》

尾所の桜の管理(樹木医による治療)

# 《無形民俗文化財への補助》

新野まつり、八幡神社・物見神社の花祭り、高田神 社の獅子舞保存伝承への補助

# 3. 市指定文化財

#### 《史跡の草刈等》

沼遺跡草刈・剪定、井口車塚古墳草刈、中宮1号墳 草刈、飯塚古墳草刈、煙硝蔵跡草刈、茶屋の一里塚 管理、神楽尾城跡草刈、荒神山城跡草刈、医王山城 跡草刈、西登山金屋寺草刈、河辺上之町草刈

# 《天然記念物の管理》

新善光寺のサルスベリ(樹木医による治療)

津山中核工業団地内古墳(一貫東1号墳)公園草刈

# C. 歴史民俗資料館の管理運営

#### 1. 加茂町歴史民俗資料館

利用者数 210 人

社会福祉法人津山市社会福祉協議会(加茂町福祉セ ンター)に管理を委託

#### 2. 勝北歴史民俗資料館

利用者数 112 人

消防用設備保守管理委託 清掃・燻蒸・整理作業

3. 久米歴史民俗資料館・民具館

利用者数 213人 消防用設備保守管理委託

4. 阿波民具館

利用者数 把握できず

# D. その他

津山やよいライオンズクラブによる沼弥生住居址群 への桜・公孫樹の植樹(3月4日)



尾所の桜 (樹木医治療)



やよいライオンズクラブ植樹

第IV部 資料紹介・研究ノート

## はじめに

鐵堂道融和尚墳墓ほか歴代住持墓所」(津山市下田邑) を市指定文化財とした。同寺にはこの他に「森長継逆 修塔及び周囲の石柵」(平成6年指定)や、未指定で はあるが、同寺7世中興開山石窓和尚の亀趺があり、 それらの遺構は黄檗宗の地方展開を伝えている。

森家と黄檗宗とのつながりは深く、宇治の黄檗宗本 山萬福寺にある「松隠堂」(重文)は津山藩2代藩主・ 森長継の実弟にあたる同支藩藩主・関長政が寄進した ものである(鮭1)。現在も萬福寺墓地には森・関両家の 供養塔が多く祀られている (註2)。

黄檗宗は江戸時代の日本に「黄檗文化」と呼ばれる 明清文化をもたらしたことから、黄檗派については主 に江戸時代の建築史・書道史・絵画史・文学史などに 関する研究が進んでいる。しかしその反面で、教団史 研究の遅れが指摘されている (註3)。以下、限られた史 料を通してではあるが、慶長8年(1603)から元禄 10年(1697)までの間に、津山森藩の支配下にあっ た美作国における黄檗派の展開について考察を試みた いっ

# 1. 黄檗派について

黄檗宗は承応3年(1654)に来日した隠元隆琦を 開祖とする、臨済宗三派(臨済宗・曹洞宗・黄檗宗) のうちの一派である。隠元は朝幕の保護を受け、寛文 元年(1661)に宇治に黄檗山萬福寺が創建され、同 寺が臨済宗黄檗派の本山となった。廃寺の復興を通じ て、急速に教線を拡大した黄檗派は、鐵牛禅師の椿沼 干拓や鐵眼禅師の大蔵経開版をはじめとする社会事業 のほか、飢饉・災害時の救済活動などを積極的に行っ ている。また、黄檗派の渡来僧がもたらした明朝文化 は江戸時代の文化の諸方面で大きな影響を与えた<sup>(註)</sup>

この時期の仏教界全体の動きをみると、黄檗派が成 立した17世紀半ばは仏教復興運動が始まりを見せた 時期であり、各宗派は法会を活発に行って教団の形成 を進めている (註5)。こうした仏教界の動きに対して、 幕府は寛文5年(1665)に諸寺法度、同8年には本郷土博物館所蔵)。

平成24年に津山市教育委員会は、「千年寺第二代 山末寺制を制定するなど、宗派の固定化が始まりをみ せたが、そうした中で、黄檗派は新しい宗教勢力とし て台頭している。しかしながら、檀家以外との寺檀関 係を持たなかったことや、中国僧の来日が途絶えたこ ともあり、17世紀後半頃には教団としては衰退期を 迎えた(註6)。なお、現在の「黄檗宗」は、明治9年(1876) に「臨済宗黄檗派」(明治7年改称)から分離して成 立した教団である(註7)。

# 2. 千年寺の創建と黄檗派の受容

津山森藩では2代藩主長継が領国内の社寺の復興を 進めており(註8)、寛文8年に千年寺が創建。萬福寺 2世木庵性瑫(1611 - 1687)を開山とした。木庵 を開山に迎えた経緯については、千年寺2世鐵堂道融 の行状を記した『千年第二代鐵堂禅師行由』(門人常 円記「千年第二代鐵堂禅師行由」/悦心編『黄檗高僧 伝』一 写本、以下『鐵堂行由』と略記する)に詳し い。同書によると、千年寺本堂落成から木庵を開山招 請するまでの数年間、「本源寺堂頭即空」の推薦により、 創建直後の千年寺には鐵堂が入ったが、その後、鐵堂 が萬福寺2世木庵性瑫より具足戒を授かり、木庵が 千年寺の開山に迎えられたといった経緯が記されてい る。この記述から、鐵堂が千年寺に入る以前に住持と して森家に招請された本源寺の即空(即空性立)が千 年寺創建に関わる重要な人物であったことがわかる。

そこで、この即空という人物について検討したい。 本源寺の史料によると、即空は本源寺4世藍岫和尚死 去後に住持を勤めた人物であり(『列堂和尚遺記 全』 本源寺蔵、享保18年成立)、4世藍岫宗祝の弟子に あたる(『昭和改訂 正法山妙心禪寺宗派圖』妙心寺 派宗務本所緫務部、昭和52年)。ただし、即空は本 源寺の歴代住持として数えられていない。その理由は よくわからないが、本源寺7世列堂の弟子にあたる祖 盆という僧が記した書によると、「或年民有軽国制輩、 公(長継公)大怒欲罰之時、即空失言」とあり、長継 に退寺を命じられたとの旨を伝えている(『本源寺略 記并住職次第』(『矢吹家資料』弓斎叢書 123、津山

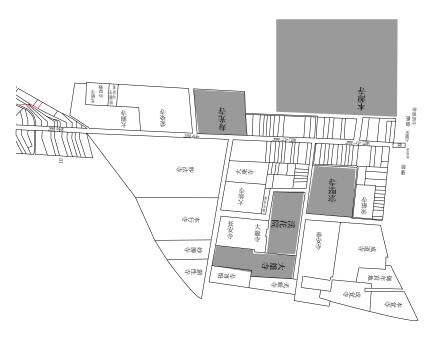
一方、本源寺7世列堂和尚が記した書によると、即 空が寺を退いた理由について「内記殿(長継)」時代 尔重罪之者在之、即空其外之寺貰之重罪、助命難被仰 付者ニ候得共、無拠赦免」とあり、退寺を命じられ たとは記していない(『列堂和尚遺記 全』(本源寺蔵、 享保18年成立)。このように、即空の隠退理由につ いては、退寺を命じられたとも、あるいは自ら寺を退 いたとも伝えている。ただ、本源寺を出た即空は、寛 文3年(1663)に萬福寺で受戒しており黄檗派に転 じている。また、延宝7年(1679)には大日山瑞景 寺(奈良市)の開山となっている(註9)。同寺は木庵の 隠居所となった寺院であるが、この時期の即空の活動 については、木庵の年譜・語録類に散見される(註10)。 なお、黄檗宗では系字(諱の一字目)で法統を表すこ とから、「即空性立」の僧名「即空」の「即」の字は 隠元の法嗣であること、諱の「性立」の「性」の字は 木庵の法嗣であることを示しているのではないかと思 われる <sup>(註11)</sup>。

本源寺から隠退した即空は、長継より本源寺への帰住を請われるも、これを固辞している。理由はよくわからないが、再住を望まなかった、あるいは妙心寺派内では寛文5年(1665)に「法山壁書」(寺規)を補正し、「一派宗風以外の他山の法式に妄従すべからざる事」と定め、黄檗派への転向を警戒していたので、

即空は妙心寺末寺である本源寺の歴代住持として認めなられなかったのかもしれない (単12)。 黄檗派の受容をめぐっては妙心寺派と黄檗派との間に対立が生じており、鳥取藩池田家菩提寺の興禅寺や萩藩毛利家の東光寺といった大名家菩提寺では両宗派の対立関係が表面化している (駐13)。そのため、鳥取藩池田家では新たに黄檗派の一寺を建立し、両派の寺をそれぞれ菩提寺としている。また、萩藩毛利家では昭穆制を採り、歴代藩主を偶数代と奇数代にわけて、黄檗派と妙心寺派の寺院をそれぞれ廟所としている。

津山藩森家の場合、2代藩主長継が創建した黄檗派の千年寺には逆修塔が建立されるなど、長継の個人的な祈祷所として営まれているが、歴代藩主の廟所は妙心寺派の本源寺のまま存続しており、両派の対立は特に見られない。あるいは、萩藩毛利家や鳥取藩池田家のように、津山藩でも両派の菩提寺が成立した可能性もあったのかもしれないが、黄檗派に転じた即空が本源寺を退いたこともあり、同寺の宗派は変わらなかったため、両派の対立が表面化することはなかったのかもしれない。

なお、千年寺から隠退した鐵堂の消息であるが、前 出の『鐵堂行由』によると、延宝6年(1678)に千 年寺から退隠し、奈良の吉野に庵を結んでいるが、翌 7年には長継・長政の招請により千年寺に帰住してい



〈図 | 〉 津山城下の妙心寺派寺院(18世紀後半)

出典 『津山城下町町人地家割図』(津山郷土博物館所蔵)

も考えられる。

## 3. 美作国における黄檗文化の受容

森家菩提寺の本源寺の周辺には、妙心寺派寺院が集 まっており、それらの寺院は妙心寺あるいは本源寺と 本末関係を結んでいる(図1)。本源寺住職を勤めて いたのが即空であるが、この時期には森家重臣の原氏 を開基とする宗堅寺・大雄寺に傳室(傳室玄悦)が、 宗永寺には鐵堂が入寺している。このうち、即空と鐵 堂についてはすでに述べたので、ここでは、宗堅寺・ 大雄寺の開山僧で、鐵堂の師にあたると考えられる傳 室についてみていくことにする。

傳室はその出自を森家の重臣である原氏とする。一 説では原十兵衛の妻の兄弟にあたる人物とされる。原 氏は慶長8年(1603)に森家の美作国に入封に従い、 美濃国より入国。森家が美濃国を支配した時代に、原 氏は鐵堂を養育したとされる(『千年第二代鐵堂禅師 行由』)。鐵堂もまた傳室と同じく原氏と関わりの深い 人物であったと思われる。原氏は美作国に宗堅寺・大 雄寺の2寺を建立し、傳室を開基とした(『新訂作陽 誌』)。傳室は晩年に妙心寺の塔頭・龍泉庵の輪番を勤 め (駐14)、隠元来日の前年にあたる承応2年に示寂し

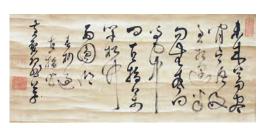
る。同年は即空が開山となって瑞景寺が創建されていている。没年からみて、傳室については黄檗派との るので、時期的にみて、鐵堂がこれに関わった可能性 関わりは考えられない。しかし、原氏が建立した宗堅 寺の末寺である西方寺西方寺3世松雲道貞(元禄3年 (1690) 没) が萬福寺2世木庵性瑫より受戒しており、 傳室の法系からも黄檗派に転じた僧があらわれたこと がわかる <sup>(註 15)</sup>。

> また、城下の妙心寺派寺院には黄檗僧の墨蹟が伝来 しており、ここにもその影響が認められる。現存が確 認できたものとして、本源寺が所蔵する即非如一墨蹟 および慧林性機筆の扁額(図2 - 写真1~3)、妙 心寺末寺の大雄寺の本堂に掲げられている木庵筆の山 号「百丈山」の木額(図2 - 写真4)、本源寺末の荘 厳山佛土寺(真庭市)客殿の木庵墨蹟などがある(図 2 - 写真5)。木庵の額字原書は貴重な遺品であり、 豊前小倉藩小笠原家菩提寺・福聚寺(北九州市)に隠 元および木庵の墨蹟、筑後柳川藩立花家菩提寺・福厳 寺(柳川市)に木庵の墨蹟が現存している(鮭16)。また、 大雄寺本堂の木額「百丈山」は金箔を施した重厚なも ので、往時の境内が偉観を誇ったことを髣髴とさせて いる。

> なお、妙心寺派寺院ではないが、大雄寺と境内を接 する曹洞宗総持寺派の長安寺の山門には、黄檗派の渡 来僧・高泉性激 (1633 - 1695) 筆の扁額が掲げら れている (図2 - 写真6)。 同寺は正保元年 (1644)



〈写真 1〉即非如一墨書「東海山」本源寺蔵



<写真2>即非如一墨書 本源寺蔵



〈写直 3〉 慧林性機筆扁額 「南無観世音菩薩」 本源寺蔵



〈写真4〉木庵性機筆扁額「百丈山」 大雄寺蔵



〈写真5〉木庵性瑫墨蹟「走盤珠」 佛土寺蔵



〈写真6>高泉性潡筆扁額「大道透長安」 長安寺蔵

〈図2〉黄檗派渡来僧の墨蹟・扁額

の創建で、安永年中(1772 - 1781)に曹洞宗総禄司を勤めた古刹である。山号は初め「勝福山」とし、後に「大道山」と改めている(『新訂作陽誌』)。同扁額の来歴は未詳であるが、高泉が元禄5年(1692)に黄檗山5世住持となっているので、その時期に揮毫したものと考えられる。ただ、「大道通長安」という文言から、同寺の山門のために作製された扁額ではないようにも思われる。黄檗派は曹洞宗復古運動の胎動に影響を与えており、山号の「大道」と寺号の「長安」は、

明治期に同寺の住職を勤めた後に曹洞宗の改革を行った救世教開祖大道長安(1843 - 1908)の名にも用いられていることから、曹洞宗の改革運動に黄檗禅が与えた影響の一端が垣間見える(註17)。

## 4. 美作国内の黄檗派寺院の本末関係

美作国内の黄檗派寺院の開基をみると、 森長継、関長政を開基とする寺院と、森家 重臣の原氏や、江見・安藤氏といった在地 領主が開基となった寺院とに分類でき、大 名家が開基となった黄檗派寺院が萬福寺直 末となり、重臣や在地領主が開基となった 寺をその末寺として組織化していることが わかる(表1)。例えば、長継が開基となっ て寛文8年に創建された千年寺は木庵性 瑫を開山とし、関長政が延宝元年(1673) に再興した菅福山玉傳寺(真嶋郡鹿田村) は隠元隆琦を開山としており、それぞれ萬 福寺の直末となっている(『新訂作陽誌』) (註18)。そして、千年寺の末寺となってい る寺の1つが、江見氏を開基とし、虎山 を開山とする禅應寺(英田郡大原村)であ る。虎山は鳥取藩池田家が黄檗派の菩提寺 として創建した龍峯山興禅寺の使僧として 来国し、江見氏の帰依を受けて同寺の開山 となっている。千年寺の末寺となったのは、 虎山が千年寺の鐵堂に帰依したことによる もので、同寺は開山後に千年寺の末寺と なっている(『新訂作陽誌』)。千年寺は美 作国内の黄檗宗寺院 11 ヶ寺(『近世黄檗 宗末寺帳集成』)のうち8ヶ寺を末寺化(こ の内2ヶ寺は孫末)しており、同国内にお

ける布教の拠点寺院となっている。

## 5. 森家と黄檗派僧との関わり

長政は寛文3年(1663)3月以降から萬福寺にたびたび参禅。翌4年には妻の松遷院の江戸屋敷を萬福寺に寄進。松隠堂(重文)がそれで、隠元の隠居所となっている。その後、同8年に長継が千年寺を創建すると、同年に長政は舎利塔を造立し、隠元・木庵・即非・慧林・独湛・高泉といった黄檗派渡来

## 〈表1〉 美作国内の臨済宗黄檗派および妙心寺派寺院

#### I 黄檗派

#### (1) 黄檗山萬福寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
長継山千年寺※	苫南郡下田邑	森長継	木庵性瑫	寛文8年(1668)	『作陽』一,『末寺』
菅福山玉傳寺	真嶋郡鹿田村	関長政	隠元隆琦	-	『作陽』三,『末寺』
	(『末寺集成』は西北條 郡小原村と記載)				

#### (2) 長継山千年寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
瑠璃山本光寺※	苫南郡西一宮	森長継	鐵堂道融	延宝元年(1673)	『作陽』一,『末寺』
金粟庵	苫南郡下田邑	江見氏	鐵堂道融	天和元年(1615)	『作陽』一,『末寺』
心空山大蔵庵	勝北郡久賀村	-	北岩	-	『作陽』六,『末寺』
高徳山禅應寺	英田郡大原村	江見氏	鐵堂道融	延宝5年(1677)	『作陽』八,『末寺』
袋山観福寺	英田郡大原村	江見氏	鐵堂道融	-	『作陽』八,『末寺』

#### (3) 瑠璃山本光寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
観音堂	東南條郡志戸部村	-	-	-	『作陽』四,『末寺』
嘯雲亭	西北條郡一宮村	-	-	-	『作陽』一,『末寺』

## (4) 慈福派(萬福寺慈福院末寺)

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代	出典
法堂山太平寺※	真嶋郡鹿田村	-	-	-	『末寺』
慈眼山永明寺※	真嶋郡一色村	-	証宗	-	『末寺』

出典の『作陽』は『新訂作陽誌』、『末寺』は竹貫下勝『近世黄檗宗末寺帳集成』(雄山閣、1990年) ※は黄檗宗宗務本院『黄檗宗寺院名簿』平成 20 年度改訂版掲載寺院

## Ⅱ妙心寺東海派

## (1) 京都妙心寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代
東海山本源寺	西今町	森忠政	海晏	慶長 12 年(1607)
法源山宗永寺	西今町	森長継		明暦2年(1656)
西厳山壽光寺	西寺町	森可政	庭怒	慶長(1596 - 1615)中 頃
護国山渓華院	西寺町	関成次	天倫	元 和 年 間 (1615 - 1625)
百丈山大雄寺	西寺町	原氏	傳室	慶長末頃

## (2) 東海山本源寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代
佛光山宗堅寺	西寺町	原氏	傳室	寛永 11 年(1634)
荘厳山佛土寺	真嶋郡垂水村	-	-	-
万歳山善福寺	苫南郡	-	-	-
金龍山寶泉寺	苫西郡	-	-	-
寂浄山慈眼寺	東北條郡上高倉村	-	-	-
摩尾山興福寺	東北條郡阿波村	-	-	-
幸福寺	英田郡土居村	-	-	=

## (3) 佛光山宗堅寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代
決定山西方寺	真嶋郡新庄村	原氏	傳室	寛永 11 年(1634)

## (4) 百丈山大雄寺末寺

山号寺号	所在地	開基	開山	建立年代
雲黄(光)山大帯寺	苫田郡勝部村	-	-	-

出典;『新訂作陽誌』

僧に賛を求めている。長政は書画を能くし、隠元・ 木庵との交流を続け、僧名を「梅岩居士」とし、晩 年には木庵より受戒している<sup>(註19)</sup>。

こうした長政と黄檗派との密接なつながりを背景として、美作国内の他宗派寺院への黄檗派の影響が認められる。例えば、高野山真言宗の豊楽寺(岡山市北区)の大般若経の整備を長政が行っている(『新訂作陽誌』)。黄檗版の開版事業に呼応した動きのようにも思われる。また、長政は元禄2年(1689)に真言宗・福聚山清水寺(真嶋郡関村)の鐘楼を鋳造し、その銘文の起草を黄檗34世高泉性激に依頼している(『新訂作陽誌』三)。

さて、次に長継と黄檗派との関わりであるが、長継には長政のような黄檗僧との文芸活動を通じた交流はみられないが、黄檗派の草創期に千年寺を創建していることから、萬福寺創建時の有力な檀越の一人であったと考えられる。また、長継の黄檗派の保護のあり方の特徴として、黄檗派寺院を祈祷所として位置づけている点があげられる。例えば、創建した千年寺には自身の逆修塔を造営しており、同寺末の本光寺に側室継光院の逆修塔を建立しているといった点にそのような特色が見られる。

なお、長継の没後、津山藩森家は元禄10年(1697)に除封。津山藩(18万6千石余)は、備中西江原森藩(2万石)・播磨三日月森藩(1万5千石)・新見関藩(1万8千石余)に分かれる。このうち、三日月藩森家では、長継の側室で、同藩藩祖の森長俊の実母にあたる継光院が移封後も黄檗派に深く帰依している。寛政3年(1791)成立の『森家雑話』には、継光院が江戸紫雲山瑞聖寺の「住職或者微笑院ケイホウ和尚抔召候て禅学修行致し」たとあり(駐20)、女性信者の信仰生活の一端がうかがえる。

# おわりに

津山藩森家菩提寺では、萩藩毛利家や鳥取藩池田家のような妙心寺派と黄檗派との鋭い対立は見られないが、妙心寺の直末寺院である同家菩提寺の本源寺から黄檗派に転じた僧があらわれている。また、美作国には黄檗派寺院が11ヶ寺あったことが確認されているが、その本末関係をみると、長継が創建した千年寺と長政が開基となった玉傳寺の2ヶ寺が萬福寺の直末となり、その末寺に重臣・在地領主クラ

スの武士が開基となった寺庵7ヶ寺が連なっており、これとは別に萬福寺塔頭慈福院の末寺2ヶ寺が建立されていることがわかる。こうした本末関係の編成から、美作国では大名家が開基となった寺院を拠点にして黄檗派の受容が進んだものと考えられる。また、黄檗派僧の墨蹟の伝存状況から、その文化的影響が他宗派にも及んでいた様子がうかがえる。

〈謝辞〉本稿の作成にあたって、西方寺池田実篤住職、 千年寺北川艶香住職、大雄寺木村道玄住職、長安寺久 保孝道住職、佛土寺馬場宗甫和尚、本源寺華山義道住 職より御教示と御協力を賜りました(以上、五十音順)。 記して厚く御礼申上げます。

## 追記

宝暦 12年(1762)に本源寺 10 世萬愚自鏡が書き記した『森関宗廟由来』(本源寺蔵)に、関長政が母の菩提寺・渓花院に寄進した寺号額(「黄檗隠元禅師渓花院」、銅額、横5尺6寸、上下幅3尺2寸5分)が本源寺に伝来していたことを示す記事が新たに見つかったとのこと、脱稿後に本源寺華山住職より御教示があった。なお、同額は現存していないとのことである。一連の黄檗僧の墨蹟が本源寺に伝来する背景がうかがえる貴重な史料であるので、付記しておきたい。

## 【註】

- (1)安部禅梁「黄檗山の開創と黄檗文化」/『古寺巡礼 京都9 萬福寺』(淡 交社、昭和52年)、竹貫元勝『日本禅宗史研究』(雄山閣、1993年)
- (2) 秋元茂陽「萬福寺に建立された大名家の墓碑考察」黄檗山萬福寺黄檗華 殿黄檗文化研究所『黄檗文華』第130号、2009 - 2010年)
- (3) 竹貫氏前掲書(註1)、同「黄檗宗教団の形成と展開」(石川力山・広瀬良弘編『叢書 禅と日本文化』第10巻 禅とその歴史、ぺりかん社、1999年)
- (4) 錦織亮介「黄檗派美術の影響」(中野三敏編『日本の近世』12 文学と 美術の成熟、中央公論社、1993年)、中野三敏「都市文化の成熟」-明風の受容」(『十八世紀の江戸文芸』(岩波書店、1999年)、大木 康『明 末江南の出版文化』(研文出版、2004年)、末木文美士『新アジア仏 教史13 日本 III 民衆仏教の定着』(佼成出版社、2010年)、木村 得玄『隠元禅師と黄檗文化』(春秋社、2011年)、同『初期黄檗派の 僧たち』(春秋社、2007年)、同『黄檗宗の歴史・文化・人物』(春秋社、 2005年)

### (前頁からの続き)

- (5) 曽根原 理「近世国家と仏教」/『新アジア仏教史13 日本Ⅲ 民衆 仏教の定着』佼成出版社、2010年、広瀬良弘「禅宗史研究の動向概観」 (『禅と地域社会』吉川弘文館、2009年)、西村玲「近世仏教論」(『日本思想史講座3 - 近世』ペりかん社、2012年)等参照
- (6) 竹貫氏前掲書(註1)
- (7)平久保章「黄檗宗」(『国史大辞典』吉川弘文館弘文館、昭和55年)
- (8)『津山市史』第三巻 近世I 森藩時代 「第三章 森氏と藩政 長継 と社寺」(津山市、昭和48年)
- (9)『奈良県史』第六巻寺院、奈良県史編纂委員会、1991年)
- (10) 平久保章『新纂校訂木庵全集』(思文閣出版、1992年)
- (11) 本源寺華山義道住職の御教示による。
- (12) 川上孤山著·荻須純道補術『妙心寺史』(思文閣、1975年)
- (13) 『妙心寺史』(思文閣、1975 年)、『鳥取県史』 第四巻 財政志・刑法志・ 寺社志 (鳥取県、昭和 46 年)、竹貫元勝「末寺帳に見る黄檗宗教団」(『近 世黄檗宗末寺帳集成』雄山閣、1990 年)
- (14) 西方寺池田実篤住職の御教示によると、傳室が妙心寺龍泉庵の輪番を勤めたことについては、『日単』(妙心寺龍泉庵蔵)慶安元年(1648)に記載がみられるとのことである。
- (15) 松雲が木庵より受戒したことについては、西方寺再興棟札(『新庄村史』 昭和41年)に記載が見られる。
- (16) 九州国立博物館特別展図録『黄檗』(西日本新聞社、2011年)
- (17) 竹貫元勝前掲書(註1)
- (18) 竹貫元勝「末寺帳記載寺院一覧表」(註 13)
- (19) 大槻幹郎·加藤正俊·林雪光『黄檗文化人名辞典』(思文閣出版、1988年)
- (20)『森氏雑話』 寛政三年辛亥七月既望 臣 深沢薫謹写(竹田家資料)

## はじめに

私は、美作地域の狛犬を悉皆調査している。奉納されている狛犬の中には、年代・石工銘以外にも、台座に寄進理由が記されたものが存在する。狛犬がどういった経緯で寄進されたのか知る上で大変重要な情報である。寄進理由の中には、「皇紀二千六百年記念」「興亜記念」など氏子中で戦勝祈願をしたものが多いが、「古希記念」「快気祝い」「日参記念」など、個人的な理由で奉納する場合もある。

さて、今回知人から自身が 10 年に渡り翻刻されている明治時代の日記に狛犬が奉納されるまでの経緯のわかる資料が見つかったという知らせが入った。それは、明治時代に活躍した津山市の実業家・安黒一枝の日記である (註1)。今回は、この日記の記述を元に

木山神社(里宮) 拝殿前の狛犬





(写真1) 真庭市木山神社(里宮)拝殿前の狛犬





(写真2) 木山神社里宮狛犬台座銘文

狛犬奉納までの経緯を追っていきたい。

木山神社(里宮)の狛犬の台座には、阿・吽それぞれに寄進理由が記されている(写真 1・2)。阿形には、「御里宮 御造営記念 津山市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建」 叶形には、「自明治四十

年一月至昭和世二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野 高岡虎市」といった銘文が書かれてある。高岡善直が、木山神社に里宮が出来たことを記念、また高岡虎市が50年間奥宮まで日参したことを記念して、狛犬を奉納したことが明記されている。



(写真3)『安黒一枝日記』昭和34年

## 安黒一枝の日記に見られる狛犬奉納までの記述

『安黒一枝の日記』は、明治32年~昭和38年、安 黒一枝が亡くなる年まで、毎日書かれていて、日記帳 48冊と大学ノ-ト23冊、その他の綴り14冊にまとめ られている (註2)。 その中に、「昭和 34 年 7 月 31 日 高岡君来荘 木山神社奉献コマ犬ノ名文ヲ据ヘッケタ之々」 とする記事があった(写真3)。「高岡君」とは誰なの か。日記を調べていくと、「高岡君来荘」という記述 が毎日のように並んでいる。昭和15年5月24日の 記述には、「高岡君来荘 善真君無事帰還ニツキ木山ニ御 礼詣スルトテ」とあり、また昭和36年7月25日には、 高岡虎市が亡くなった後に「高岡善真君来荘 父翁仕 上昨日執行シタ由ニテ送品」と書かれてある。「高岡君」 とは、高岡虎一(市)という人物で、その息子が高岡 善真という名前であることがわかった。木山神社(里 宮)の狛犬の台座銘には、「御里宮御造営記念 津山 市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建」。 「自明治四十年一月至昭和丗二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野高岡虎市」とあり、 日記の記述を照合すると、高岡虎市の字が「市」・「一」 と異なるが記述内容から同一人物であると考えて良い 野自宅火事ニナリカケ幸ニ早ク発見大事ニナリ由ヒヒノ礼漸ケニ木山 と思われる(写真 1・2)(資料 1)。

## 高岡虎市、木山奥宮 50 年間日参の記

高岡虎市は、大正8年から昭和35年に77歳で亡 くなるまでの約40年間に渡り登場している。仕事関 連のやりとりが主な内容だが、徐々に高岡の個人的な 動向も記述されるようになり、高岡が木山神社に参詣 したことがわかる記述は、解読されたものの中からだ けでも 152 件にのぼる (写真 3・資料 1)。 日記の記 述からは、高岡の人物が窺えるものもある。例えば、 昭和 15 年 5 月 24 日「高岡君来荘 善直君無事帰還 ニッキ木山ニ御礼詣スルトテ」とあり、高岡虎市の息子が太平 洋戦争から無事帰って来たことへのお礼を言いに参詣 している。昭和15年は、高岡が木山へ参詣した回数 が14回と他年と比べ群を抜いている。また、前後の 年も例年より回数が多く無事に帰ることを祈念してい たと思われる。また、昭和28年7月13日「高岡君 来荘 病夫人付付最後が近井外模様コノ一週間山口医師ノ 診断ヤ□□ノ件ナド咄ス □□ハ木山行キノ予定也ト」昭和 28年7月25日「□ド品 葬儀費ナド十三万円ヲ要シタリ ト 明朝木山へ行か」昭和28年7月26日「今夕木 山上小」では、高岡の妻が病気になり明日をも知れな 関係者にお世話になった。末筆ながら記して御礼申し い状態の中、回復祈願に木山へ参詣する様子が窺える。 さらに、昭和32年6月30日「高岡君来談 上横

へ参詣帰津セリト」、昭和32年12月26日「高岡君来 荘 長女/知□□君□/大手術ヲ受ケ本日七日ニナルソノ間木 山詣りノ他ニ是□気毒ヲ思ウ」など、火事になりかけたり、 長女が大手術を受けるなど困難に陥った際は必ず参詣 している。晩年の高岡は、心臓を患っていて体調不良 の時期が続くが木山詣を止めることはなく、ついには 昭和34年の狛犬奉献へとつながった。さらに最晩年 には、昭和35年4月23日「高岡君来荘 二十七日 木山建碑スルハナシ」、昭和35年4月29日「高岡君来荘 木山寺碑二十七日ニ建立シタリト本日帰津 休養スルト」と あり、木山寺へも碑を献じていることが分かる。大変、 信心深い人物であったと思われる。

#### おわりに

今回は、狛犬を台座だけでなく、日記からも見るこ とで別の視点から考察した。50年間日参と書かれて はあるが、実際どのように50年間通ったのかは、台 座からだけでは読み取れない。日記には、時代背景や 参詣の様子などが書かれてあり、狛犬が奉納された時 代をリアルに感じることできた。

小稿を書くにあたって、岩本えり子氏、木山神社の 上げます。

## (資料1) 『安黒一枝の日記』 大正10年~昭和35年

大正 10 年 12 月 13 日	高岡君木山神社より帰津木山及落合二ヵ所に竹器販売店を紹介してくれ
大正 10年 12月 14日	朝 高岡君来荘 木山神社に札上贈
大正 14年9月20日	高岡君 本日木山神社へ参詣明朝帰津の旨 言使あり
大正 15年6月30日	香山・高岡の両君木山詣デ
大正 15年 11月 15日	高岡君来荘 木山神社へ電話布設寄付の件
昭和4年1月20日	高岡君 木山 甲斐蓬太郎君同伴来荘
昭和4年6月3日	高岡君来荘 因幡山林の件ニ付 今夕木山へ参詣明日帰津の旨
昭和4年7月13日	夜分 高岡君来訪 雑談 明朝木山詣デ 夕方帰津するとのことなり
昭和4年7月14日	高岡君 本日 木山詣テ
昭和4年7月15日	高岡君 木山より帰津
昭和4年9月13日	木山神社宮司 甲斐蓬太郎君来訪 社務所改築寄付の件
昭和5年2月19日	高岡君来荘 昨夜終列車尓テ帰津したり迪 木山詣
昭和5年5月4日	高岡君等の一行 今夕木山より帰津ノ由也
昭和5年7月12日	本日木山参籠の約ありしも高岡先達来津尓起為免取止免 棋戦

昭和5年7月16日 朝六時起床 高岡 龍門君同伴七時三十分発尓テ木山神社参詣 大暑口、難く途 中三回休憩十一時山上尓到達 木山神社及び木山寺へ参詣 木山寺尓至り高岡君 の紹介尓依り和尚会見 宝物雪舟幅其他観覧 昼食をヨバレ二時過ぎ 甲口老先生 訪問初対面也 当□□蓬太郎君も来会すル 夕食の饗応尓アツカリ懇談数刻 本日帰 津予定/処 薦免られて遂尓一泊一時ころ迄老先生と雑談 他諸君 碁戦 夜を 徹したる模様也 老杉鬱蒼天尓直立し荘厳の観あり山上の涼味可掬 一時頃 快 眠を貪る 昭和5年7月17日 朝七時起床 九時頃朝食 蓬太郎君来会 十時出発 下山十一時三十分落合発一 時帰津 夕方高岡君来荘 高岡君来荘 午后 高岡君木山へ参詣3シ 昭和5年9月27日 昭和6年3月7日 高岡君来荘 今夜 木山村会陽へ参詣春る由なり 昭和6年3月10日 高岡君来荘 木山より本日帰津志たり迪 夕方 辞去 高岡君 昨夜 木山寺より帰津したり迪来荘 昭和6年3月30日 高岡君来荘 木山寺 和尚同伴 夕食を共尓春 昭和6年5月20日 昭和6年6月21日 10 時過 高岡君来荘(木山より帰津) 昭和6年10月2日 高岡君来荘 午后出発 山口君同伴木山へ赴く迪 高岡君来荘 木山より昨夜帰津切り 昭和6年10月4日 高岡君来荘 同君ハ午後 木山詣で明夕帰津ノ筈 昭和7年1月12日 三時 高岡君来荘 木山よりの帰途 昭和7年2月13日 昭和7年4月5日 高岡君有り 木山詣り明日帰津ノ筈 昭和7年6月5日 高岡君来荘 同君木山詣で夕刻帰津/迪 昭和7年10月23日 夕方 高岡君木山より帰津 会食 高岡君来荘 約上書調印□□春 甲斐蓬太郎君二名来荘 木山神社二建築寄付金二 昭和7年11月9日 関春る件不取敢金 百円也口幅 昭和7年11月26日 高岡君来荘 本日木山詣り明夕帰津/由 昭和7年11月28日 高岡君来荘 高岡君木山より帰津来荘 昭和8年1月6日 高岡君 木山より帰津来荘 高岡君来荘 木山寺会陽 神木持参 夕食7共二春 昭和8年2月17日 十一時頃 高岡君来荘 今朝木山より帰津 昭和8年6月25日 本日 甲斐老人 葬儀予定/処榊料7高岡君へ托し失礼 昭和8年8月20日 高岡君 夕刻 木山より帰津 昭和8年8月21日 昭和9年1月31日 高岡君来荘 本日木山詣 昨夕帰津/由 高岡君来荘 木山寺会陽へ参り帰途也 昭和9年3月6日 昭和12年2月28日 高岡君来荘 昼到木山寺会陽二参詣来月三日迄二帰津さるとの事 昭和12年3月4日 高岡君 木山ヨリ帰津来荘 風邪ニナリ閉口シタリト 高岡君来荘 昨夕木山到帰津切片、云々 昭和12年7月16日 昭和12年10月19日 高岡君 夕刻 木山院到明後日帰津/事 昭和13年1月5日 十時 高岡君来荘 本日木山詣デ明日着 昭和13年2月6日 高岡君来荘 □□木山へ詣り明夕帰津する迪 昭和13年3月6日 十時過ぎ 高岡君来荘 一昨日来木山参詣昨夜帰津ニョリトテ 0 時半辞去 昭和 13 年 4 月 26 日 高岡君来荘 昨夜 木山ヨリ帰津セリトテ 昭和 13 年 4 月 30 日 高岡君 木山へ明日帰津/ヨシ

昭和13年8月17日 高岡君来荘 木山へ詣デ本日帰津シタリトテ 昭和13年10月22日 高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シタリトテ 昭和13年12月31日 高岡君来荘 一昨日木山へ詣る昨夜帰津 高岡君来荘 明日 木山参詣 明後日夕方迄ニ帰津/筈ト 昭和14年1月3日 昭和14年1月7日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津セリトテ 昭和14年4月30日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津シタリトテ 高岡君来荘 昨夕 木山到帰津シタリトテ 昭和14年5月14日 高岡君来荘 木山ヨリノ帰途ナリ 昭和14年7月15日 昭和14年8月7日 高岡君来荘 木山へ参詣 昨朝一番ニテ帰津シタリトテ□へ帰村 高岡君来荘 本夜 木山へ詣ルトテ 昭和14年8月18日 高岡君来荘 木山3リ昨日帰津シタリトテ 昭和14年11月14日 昭和14年12月1日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津シタリトテ 高岡君来荘 木山到 昭和15年1月2日 高岡君来荘 木山ヨリ帰リタリトテ来荘 昭和15年1月5日 昭和15年1月18日 高岡君来荘 今朝 木山ヨリ帰津シタリトテ 昭和15年1月22日 高岡君引電話 三時頃 木山詣デ 明後日帰津スル旨 昭和15年2月2日 高岡君来荘 今朝木山到帰津シタリトテ 高岡君ハ今夜木山ヘ詣デ 26 日夜分帰津ノ筈 昭和15年2月24日 昭和15年3月6日 高岡君来荘 過刻出津シタリトテ本日木山詣日明朝帰津/由 昭和15年3月18日 高岡君来荘 今朝木山より帰津シタリトテ 昭和15年5月3日 高岡君来荘 木山到帰津来荘 高岡君来荘 善直君無事帰還ニツキ木山ニ御礼詣スルトテ 昭和15年5月24日 高岡君来荘 満州咄ヲキウ、本夕木山詣 明日帰津ノ筈 昭和15年7月20日 高岡君 明朝木山詣デスルトノコト 昭和15年7月30日 昭和15年8月26日 高岡君来荘 午后木山へ上り明朝帰津り事 昭和15年8月27日 高岡君来荘 木山ヨリ帰リタリトテ夕刻迄雑談 昭和15年10月3日 高岡君来荘 昨日木山詣ノ過刻帰津シタリトテ夕刻帰村 高岡君来荘 木山ヨリ昨夕帰津シタリトテ 昭和15年10月23日 夕方 高岡君木山ヨリノ帰途立チヨリ 昭和16年6月1日 昭和16年6月6日 本日 木山到帰児キタリトテ 昭和16年9月11日 夕方 高岡君来荘木山ヨリ帰津シタリトテ 昭和16年10月19日 高岡君来荘 木山秋祭二参詣スルトテ 高岡君来荘 本日木山ヨリ帰リタリトテ 昭和16年10月22日 昭和16年11月20日 高岡君来荘 木山戻リナリトテ 昭和16年11月23日 高岡君来荘 木山ヨリ唯今帰津シタリトテ来荘ニ就キ 昭和17年1月10日 高岡君来荘 木山ヨリ過刻帰津シタリトテ木山寺ヲ□贈ラル 高岡君来荘 木山ヨリ帰津 来月四日 高岡君木山詣ノ序ヲ以テ調査シテ貰フコトニスル 昭和17年1月29日 昭和17年2月4日 高岡善真君 神戸岡本へ行かデ来荘 次デ高岡虎市君木山参詣/途次立チョル 昭和17年2月7日 高岡君来荘 高岡君木山到帰途立チョラル 昭和17年2月19日 高岡君来荘 木山入山/帰途 昭和17年3月4日 高岡君来荘 午后木山会陽二参詣スルトテ 昭和 17年3月26日 高岡君木山ヨリノ帰途立チョラル

```
高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰リタリトテ
昭和17年4月10日
昭和17年6月13日
               高岡君来荘 木山へ行かた
               高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津シタリトテ
昭和17年6月15日
               高岡君来訪 夕刻木山へ詣7
昭和17年7月5日
昭和17年9月23日
               高岡君来荘 明日木山へ詣7
昭和17年9月25日
               高岡君来荘 木山戻り
               高岡君来荘 木山ヨリノ帰途
昭和17年10月23日
               高岡君来荘 木山到帰途
昭和 17年 12月 5日
               (昭和18年~昭和24年までは未解読)
               高岡君来訪 木山/帰途
昭和25年1月17日
昭和25年3月12日
               高岡君来談 木山会陽引きツ々キ昨日日垣
昭和25年5月31日
               高岡君来談 木山/帰途
               高岡君来荘 木山到帰還
昭和25年7月16日
               高岡君来荘 木山会陽帰途 雑談
昭和26年2月26日
昭和27年6月12日
               高岡君来談 昨日木山へ本朝帰津セリト
昭和28年3月3日
               高岡君来談 夕刻 木山会陽へ参詣スルトテ云々
昭和28年3月8日
               高岡君来荘 昨日木山到帰津
昭和 28 年 7 月 13 日
               高岡君来荘 病夫人イヨイヨ最後が近キタル模様コノ一週間山口医師ノ診断ヤ□□ノ件ナド咄ス
              □□ハ木山行キノ予定也ト
昭和28年7月25日
              □ド品 葬儀費ナド十三万円ヲ要シタリト 明朝木山へ行クト
昭和28年7月26日
               今夕木山上小
昭和28年8月8日
               高岡君来荘 □□川ニオチ□骨二本打リシ由 明朝木山へ上ルヨシ
               高岡君来荘 今日明日木山会陽
昭和 29 年 2 月 22 日
               高岡君来荘 木山ニ上リ□□
昭和29年5月7日
              高岡君再訪 明日は木山行き
昭和29年5月29日
              高岡君来荘 木山□新□来津
昭和29年11月30日
               高岡君来荘 木山寺□□へ昨日午後三時離津□山去る由
昭和29年12日2日
               高岡君来荘 木山到帰津 来月木山会陽へ要領ヲ得ラサルト
昭和30年1月31日
               高岡君来談 木山が昨夕帰津シタカト
昭和30年2月15日
昭和30年7月11日
               高岡君来荘 前月末 病気□本月四日頃ヨリ□快 昨日 木山へ参詣スル予定ナリト
昭和30年7月17日
               高岡君来荘 木山詣デ五日間滞留□帰津□□□
昭和30年9月22日
               高岡君ヲ訪フ老人一昨日木山ヘ詣デ過刻帰リタリト
昭和30年9月25日
               高岡君来荘 藍瑍大幅ハ木山ヘ向カウ由
昭和30年10月11日
               高岡君来荘 木山へ参詣シテ居ッタ由 色々コマル話アル
昭和31年3月8日
               高岡君来荘 □日来 真賀温泉 湯原五日間 ソレカラ三月一日 木山会陽ニ立会昨
               日帰津沙由
昭和31年4月10日
               高岡君来談 十二日木山へ行かりつト 木山寺二□宿ノ咄ナト
昭和31年4月18日
               高岡君来荘 木山寺落慶経過
               高岡君来荘 木山ヘ詣タ 昨夕来娘ノトコヘ帰津シタト
昭和31年5月7日
昭和31年10月16日
              高岡君来荘 来ル二十日 木山秋祭ニハ赤染君がか
昭和32年2月21日
              高岡君来荘 木山会陽ヨリ昨夕帰津シタリトテ
昭和32年3月14日
              夕景 高岡君来荘 一昨日木山へ参詣
```

昭和32年3月30日	高岡君来荘	昨日木山へ過刻シタリト
昭和 32 年 4 月 21 日	高岡君木山詣	$\widehat{ ilde{ i}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}} }}}}}}}}}}}}}}$
昭和 32 年 6 月 30 日	高岡君来談 津切ト	上横野自宅火事ニナリカケ幸ニ早ク発見大事ニナリ由ととノ礼漸ケニ木山へ参詣帰
昭和32年8月7日	高岡君来荘	勝山到木山八詣テ昨夜帰津シタリト
昭和 32 年 9 月 16 日	高岡君来談	昨朝出津シタリトテ松材取計第1回分取□無事終了シタ由 明朝ハ木山ヘ松
	材壳冰水	
昭和 32 年 12 月 26 日	高岡君来荘	長女ノ知□□君□ノ大手術ヲ受ケ本日七日ニナルソノ間木山詣リノ他ニ是□気毒
	ヲ思ウ	
昭和33年2月23日	高岡君来荘	木山神社へ御籠りソレカラマガ温泉へ三泊昨夕帰津シタトテ
昭和33年3月12日	高岡君来荘	木山ヨリ昨日帰津シタリトテ
昭和33年6月19日	高岡君来荘	木山到真賀へ漸が昨夕帰津がト
昭和34年2月4日	高岡君来荘	昨日木山詣ヲシタタメ木山寺ノ御木札持参オクラル
昭和34年7月13日	高岡君来荘	木山/夏祭/参詣スルト
昭和34年7月16日	高岡君来荘	木山ヨリ昨日帰ッタリト
昭和34年7月31日	高岡君来荘	木山神社奉献コマ犬ノ名文ヲ据ヘッケタ之々
昭和34年8月9日	午後 高岡君	書来荘 十六日落合ヘ赴ニ奉納ノ□建□スルト
昭和34年10月6日	高岡君来荘	木山引昨日帰津シタト本日帰村
昭和34年10月16日	高岡君来荘	来小二十日木山秋祭二八赤染君が分
昭和34年10月17日	高岡君本日	木山行
昭和34年10月21日	高岡君来荘	木山驯昨日帰津
昭和34年12月6日	高岡君来荘	昨日木山参りシタト
昭和34年12月20日	高岡君来荘	昨日木山イイッタ由
昭和35年1月10日	高岡君来荘	一昨日木山へ詣り昨日帰津切り
昭和35年1月30日	高岡君来荘	□□□木山ヘ詣ッタリトテ本夕帰村
昭和35年3月26日	高岡君来荘	后三時/キ車テ木山ヘ行クト
昭和35年3月29日	高岡君来荘	木山寺昨日帰津シタリト
昭和35年4月23日	高岡君来荘	二十七日木山建碑スルハナシ
昭和35年4月29日	高岡君来荘	木山寺碑二十七日-建立シタリト本日帰津 休養スルト
昭和 35 年 5 月 29 日	高岡君来荘	明日木山小
昭和 35 年 6 月 22 日	高岡君今朝途	盆二死去□照電ニ接沙曲・・・云々

# 文献

(註1)『岡山県人物事典』山陽新聞社 1994

(註2) 岩本えり子「大谷土地区画事業の一側面~安黒一枝の日記から(1)」『年報津山弥生の里第 16 号』2009

印刷仕様

質 表紙 レザッククリーム 175kg

本文 ニューエイジ 90kg

D T P O S Windows 7 Professional

DTP Adobe Indesign CS6

図版作成 Adobe Illustrator CS6 写真調整 Adobe Photoshop CS6

Scanning  $35\text{mm} \cdot 6 \times 7\text{film}$  EPSON GT  $- \times 970$ 

図面類 GRAPHTEC IMAGESCANNER TS7000

使用 Font Open Type 基本 3 書体(小塚ゴシック Pro、小塚明朝 Pro、M S ゴシック)

画像原稿 階調画像線数は175線

紙

印 刷 印刷所へは、PDF X-1a (2001) で書き出して入稿

# 年報 津山弥生の里 第22号 (平成25年度)

2015年3月31日発行 発行 津山市教育委員会生涯学習部文化課

津山弥生の里文化財センター

**〒** 708 − 0824

岡山県津山市沼600-1

TEL0868-24-8413 FAX0868-24-8414

印刷 (有)弘文社